

九州大学 経済学部

SCHOOL OF ECONOMICS
CAMPUS GUIDE 2027

経済・経営学科 / 経済工学科



経済学部長あいさつ



経済学部長
〔 経済学府長
経済学研究院長 〕

大西 俊郎

創立100周年を迎えた 九州大学経済学部は、 伊都キャンパスで未来を拓きます。

経済学部は、1924年に九州帝国大学法文学部経済科として発足し、2024年に創立100周年を迎えました。この間に2万人を超える人々が経済学部、大学院修士課程・博士課程を巣立っています。民間企業、官公庁および学界に多くの優れた人材を輩出することによって、日本経済の発展に貢献するとともに、教育・文化、ひいては日本社会全体の発展に貢献してきました。

2018年9月に伊都キャンパスへ全面移転した本学部・本学府は、先輩たちが築いてきたこの伝統を受け継ぎ、ますます変化を速め複雑化・多様化しつつある現代社会の中で、経済の動向を的確に把握し、創造的に問題解決できる人材の育成を目標としています。

経済学部には約1000名の学生が在籍し、 入門科目から専門科目へ積み上げていく 体系的カリキュラムの下で学んでいます。

経済学部では、積み上げ方式のカリキュラムが体系的に提供されます。すべての学年において小人数演習いわゆるゼミナールを受講可能なことが大きな特色です。「修学カルテ」を用いたユニークな修学指導の体制があり、学生の修学状況をフォローアップしています。特に1年次の前期終了時には、1年生全員に対する修学面談が実施されます。

意欲のある学生には「学部・学府一貫教育プログラム」という独自のプログラムが用意されています。大学院修士課程を経て将来、専門研究者や専門職を目指す意欲と能力のある学生を選

1924-2027



目次

経済学部長あいさつ

- 2 組織・学科
- 4 入試のしくみ
- 6 カリキュラム
- 8 ゼミ紹介
- 10 教員紹介
- 21 卒業生・修了生からのメッセージ
- 24 学生生活支援
- 25 国際交流
- 26 大学院案内
- 27 就職状況
- 28 伊都キャンパス紹介

抜するためのものです。3年次前期までに優秀な成績をおさめた学生、または、ゼミナール指導教員からの推薦を受けた学生が、このプログラムに応募できます。プログラムへの参加を認められた学生は、4年次から経済学府の講義を受講し、修士課程に進学するための特別選抜試験を受験することができます。

伝統を引き継ぎつつ新たなチャレンジを!

21世紀に入り経済・社会のグローバル化は新たな段階に入りました。経済学部では2018年度に、グローバル人材の育成を目指す教育プログラムとして「**経済学部グローバル・ディプロマプログラム (Global Diploma Program in Economics, ジェープロイー GProE)**」をスタートさせました。

新段階のグローバル化がマクロ経済・産業・企業の各レベルでもたらす複合的な諸問題を、経済学や経営学のツールを用いて深く理解し、グローバル・マインドをもってその解決策を提言できる次世代人材を育成するためのプログラムです。プログラムに選抜された学生は、英語講義や留学を通じて、経済学・経営学分野の専門性をグローバルな場で積極的に展開する力を身につけます。

さらに、他の人文社会科学系学部および工学部建築学科と協働して「**人文系副専攻プログラム**」を運営しています。このプログラムを通じて、経済学部で学ぶ深い専門性に加え、学部の枠を超えた人文・社会科学分野の知的広がりを獲得することができます。

このように経済学部・学府・研究院は、教育研究上の諸課題に果敢に挑戦してきました。これからも将来を見据えて積極的にチャレンジしていきたいと思えます。



THE SCHOOL OF ECONOMICS

組織・学科

経済学部

経済・経営学科

幅広い教養 豊かな現実感覚と
国際性を身につける

経済・経営学科では、経済学・経営学の基礎理論と幅広い教養、豊かな現実感覚と国際性を身につけることによって、複雑化し多様化する現代経済社会が直面する諸問題に的確に対処し、その解決策を見出していける人材を育成していきたいと考えています。

この目的のために、経済・経営学科では2006年のカリキュラム改革により、従来の2コース制を廃止し、「経済分析系」・「産業分析系」・「企業分析系」の3つの系統に専門科目群を分けることで、多様な問題関心と卒業後の進路に即した履修体系を組めるようにしました。

「経済分析系」は、今日の経済社会が抱えている問題を理論的・構造的視点から把握・分析し、それらの問題に立ち向かい、解決していく分析力・企画力・創造力をそなえた人材を育成することが目標です。

「産業分析系」は、激しく変化する産業社会を歴史的・実証的に分析し、将来動向を予測し、的確な具体的政策を企画できる、柔軟で創造的な应用能力をもった人材を育成することを目標にしています。

「企業分析系」は、内外に活動の場を広げている企業の活動を理解し、抱える問題に対処していく分析能力を持った人材を育成することを目標にしています。

経済工学科

経済諸問題を総合的に捉え、分析し、
創造的に解決する能力を身につける

経済工学科は、理論と分析ツールおよびその応用を一体的に学び、「経済を総合的に捉えていく能力」の修得をめざす学科です。特徴の第1は、数量的なアプローチに重点を置いている点です。スタッフも経済学だけでなく、工学、理学など、様々な分野出身の研究者がそろっています。第2に、現実経済への働きかけとしての政策がもつ役割を重視しています。理論モデルを設定し、計量分析手法を用いて諸政策の効果を検討することに加えて、課題解決へむけた創造的な思考法を身につけることに力点が置かれています。

経済工学科は、経済システム解析、政策分析、数理情報の3分野から構成されています。経済システム解析の分野は、経済の諸問題を、マクロ経済、ミクロ経済の双方のレベルで数理、数量的手法を用いて分析しようとするものであり、政策分析の分野は、多様な経済問題に対する諸政策を分析・評価するための手法を学び、新たな政策提言を行うという課題をもっています。数理情報の分野では、経済分析のための統計的・数学的基礎、大量の情報を管理し処理するための数学的な基礎知識、コンピュータの基礎と実践的な応用について学びます。

経済学部で人気の、二つの魅力的なプログラムをチェックしよう！

1. GProE [経済学部グローバル・ディプロマプログラム]

経済学・経営学の専門知識を武器に、世界に羽ばたこう！

ジー プロ イー



英語講義や留学を通じて、
経済学・経営学分野の専門性を
グローバルな場で積極的に展開する力を身につけます。

- ◎定員10名。「将来グローバルに活躍したい」という希望を持つ経済学部1年生を対象に、入学後の成績、英語力、志望動機などを審査して選抜。
- ◎魅力的なプログラムが盛りだくさん！
 - 2年次：外国での短期語学研修、日本の経済や経営に関する英語授業など
 - 3-4年次：外国からの招聘教員による英語集中講義、交換留学制度を利用した長期留学、英語での論文執筆など
- ◎GProE生には大学院進学のための「学部・学府一貫教育プログラム」参加資格も付与！



オーストラリアでの短期語学研修から帰国したGProE生

深く・広く学んで、大きな翼で世界に羽ばたこう！

2. 人社系副専攻プログラム

経済学・経営学分野の専門性を基礎に人文学・社会科学分野の広い知識を体系的に身につけることができます。

プログラムと科目例 *文学部・教育学部・法学部・経済学部・工学部建築学科が共同で提供

- ◎現代のための歴史
現代史入門、史学概論、イスラム史学、教育史、政治史、経済史、日本建築史概論等
- ◎クロス・アジアの人間と社会
Citizenship Education in Contemporary Asia I・II、アジア宗教思想、中国法、グローバル化とアジア経済等
- ◎超情報化社会の文系知
情報法、法情報学、ジャーナリズム論、教育とコミュニケーションデザイン、情報経済等
- ◎グローバル時代のビジネス
現代日本経済論、国際ビジネス、国際取引法、比較教育学、比較宗教学等
- ◎建築から学ぶ地域文化遺産
建造物文化財学A・B、日本建築史概論、人文学基礎I・II、教育文化史、行政学、日本経済史等

横断型プログラム



現代のための
歴史



クロス・アジアの
人間と社会



超情報化社会の
文系知



グローバル時代の
ビジネス



建築から学ぶ
地域文化遺産



文学部



教育学部



法学部



経済学部



工学部
建築学科



最新の入試の詳細は、九州大学の「学生募集要項」をご覧ください。

各選抜の2027年度入試募集要項の公表時期(予定)は以下のとおりです。

- 総合型選抜Ⅱ*.....8月下旬
- 一般選抜(前期日程・後期日程).....12月中旬

感染症等の状況に応じて、選抜方法等が変更になる可能性があります。最新の状況は、ホームページ上でご確認ください。

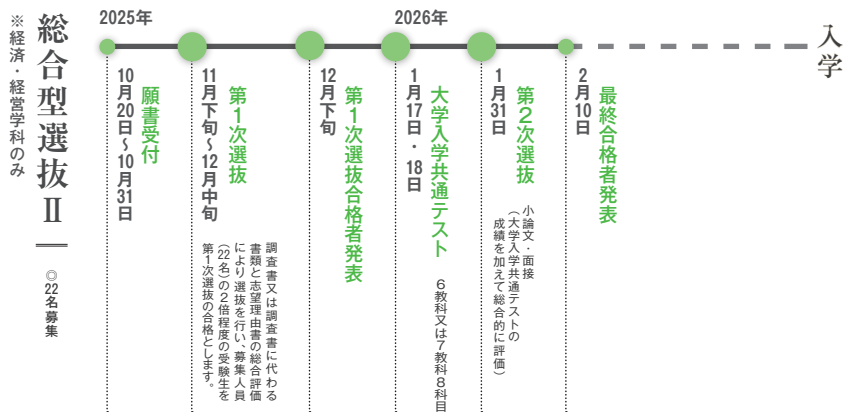
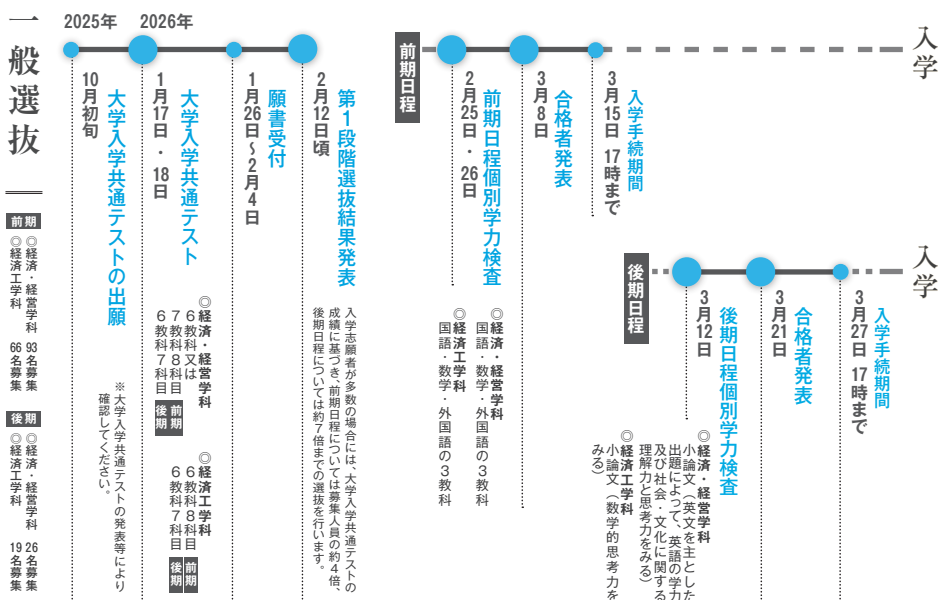
*経済・経営学科のみ

こちらから
ご覧いただけます



<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/admission/>

過去の入試の事例 (2026年度入試)



経済・経営学科については、2021年度より総合型選抜を実施しています。

「総合型選抜」について ※経済・経営学科のみ

2020年の秋から、経済・経営学科において新たに総合型選抜が始まりました。この入試は、従来 AO 入試とよばれていたものであり、一般選抜（前期・後期）に加えて実施されます。

総合型選抜においては、大学入学共通テストの結果、調査書又はそれに代わる書類や志望理由書の内容、および小論文や面接の結果を通して、受験生の志望動機、知識、素養、思考力、適性などを多面的・総合的に評価します。なお、総合型選抜による募集人員は22名です。

第1次選抜

調査書

志望理由書

調査書又は調査書に代わる書類と志望理由書の総合評価により選抜を行い、募集人員(22名)の2倍程度の受験生を第1次選抜の合格とします。

第2次選抜

大学入学共通テスト
6教科又は7教科8科目*

面接

小論文

第1次選抜に合格した受験生に対して小論文と面接を実施し、これに大学入学共通テストの成績を加えて総合的に評価します。

〔募集人員の変更〕

総合型選抜の実施にともない、経済・経営学科では一般選抜の募集人員が変更されました。一般選抜(前期)は110名から93名へ、一般選抜(後期)は31名から26名へ、それぞれ変更されました。なお、総合型選抜の入学手続きが募集人員に満たない場合、その不足した人員は一般選抜の前期日程入試の募集人員に加えます。

Q&A よくある質問

Q. 総合型選抜に不合格となった場合、一般選抜を受験することはできますか？

A. 第1次選抜で不合格となった場合はもちろんのこと、第2次選抜で不合格となった場合においても、一般選抜の前期日程および後期日程ともに受験することができます。その場合、他大学や他学部へ受験することもできます。

Q. 大学入学共通テストの受験を要する教科・科目は、これまでの一般選抜とは異なりますか？

A. 一般選抜(前期)で求められる教科・科目と同様です。ただし、配点は異なります。

Q. 募集要項に記載されている第2次選抜の「大学入学共通テストについては、満点の75%程度を合格の目安とします」というのは、どういう意味でしょうか？

A. 第2次選抜では、小論文や面接の結果に関わらず、大学入学共通テストの結果によっては、不合格となる可能性のあることを意味しています。なお、満点の75%程度は目安ですので、年度によって異なる場合があります。

Q. 第1次選抜では何を評価するのでしょうか？

A. 第1次選抜は書類審査であり、志望理由書と調査書又は調査書に代わる書類を通して、受験生のこれまでの学習状況、志望動機、知識、素養、および思考力、さらに経済学や経営学に対する適性を評価します。

学修しやすく設計された、 学部から大学院までの一貫した教育体系。

バランスのとれた 教育体系

主に1年次で履修する基幹教育科目は、学習態度の涵養と知識の修得を主たる目的としています。経済学部での勉学の中心となる専攻教育科目は、2年次の基本科目と3、4年次の科目に大別されます。基本科目は経済学全般にわたって基礎となる科目です。基本科目の学習は3、4年次の専門性の高い科目へとつながります。これらのほかに、専門を越えた視点や知識の学習を促すために2年次以降で履修する基幹教育科目があります。

丁寧な修学指導

1年生の後期開始直前に全員に対して修学指導を行っているだけでなく、修学状況がおもわしくない学生に対しては教員が個別に面談する機会を定期的に設けています。また、2年次の基本演習または基礎セミナーや3年次からのゼミでは、担当の教員が個々の学生に対してアドバイスをしています。



少人数のセミナーによる きめ細やかな教育

演習(セミナー、ゼミ)は教員と学生、学生相互が討議し学習を進めるもっとも特徴のある大学教育の場の1つで、各教員が独自の特徴のあるセミナーを行っています。入学後すぐに履修する基幹教育セミナーおよびプレセミナーで大学生としての学びの習慣を獲得します。2年次の基本演習または基礎セミナーから本格的なセミナーが始まります。3年次からの演習(ゼミ)は必修で、必ずいずれかの教員のゼミに所属することになります。ゼミでは教員の専門分野に従って学習します。自分の学習目的によってゼミを選択しますが、1学年最大10人程度のクラス編成としているため、ゼミへの参加は教員の許可が必要となります。2年次までに履修しておかなければならない基本科目が指定されているゼミもあります。

学部・学府 一貫教育プログラム

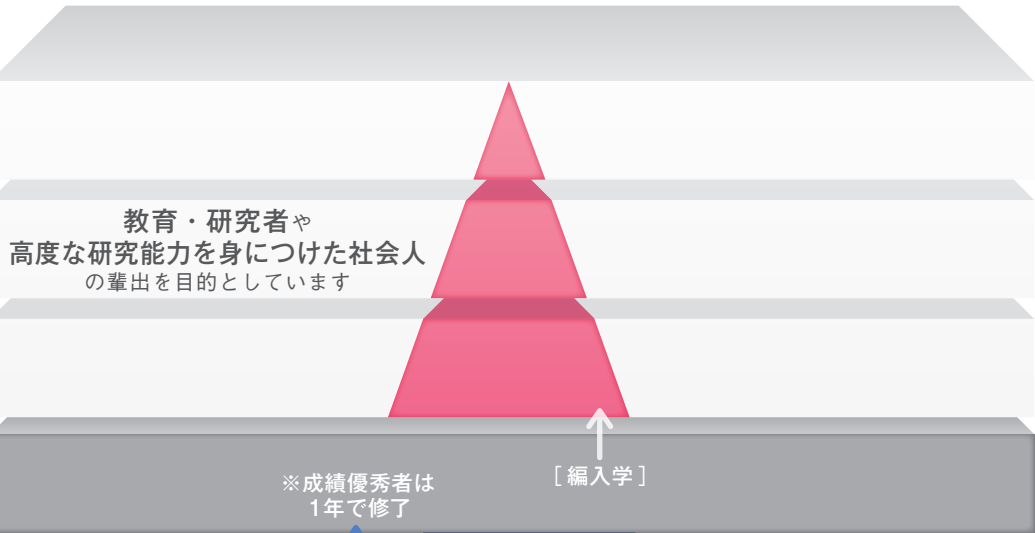
大学院では学部教育よりもさらに高度な専門知識を身につけることができます。3年次前期までに優秀な成績をおさめた学生は、学部・学府一貫教育プログラムに応募することができます。同プログラムでは、4年次から大学院の講義を受講し、修士課程特別選抜を受験することができます。修士課程では、優秀な論文により通常2年の課程を1年で修了することも可能となります。

博士後期課程

3年

2年

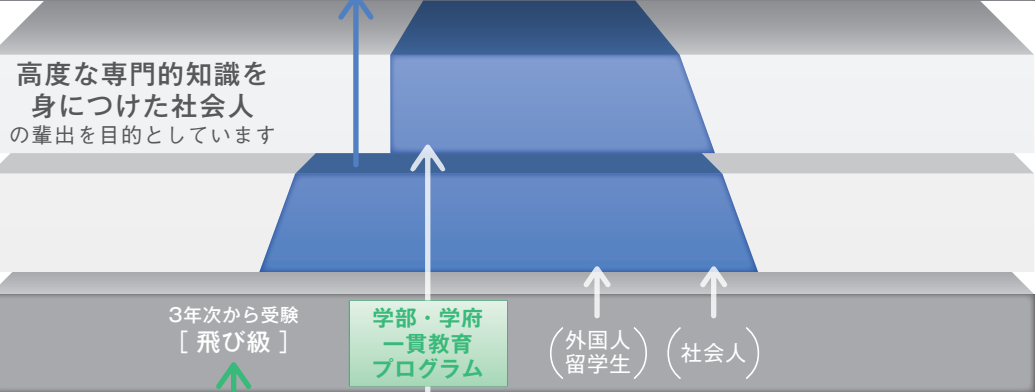
1年



修士課程

2年

1年



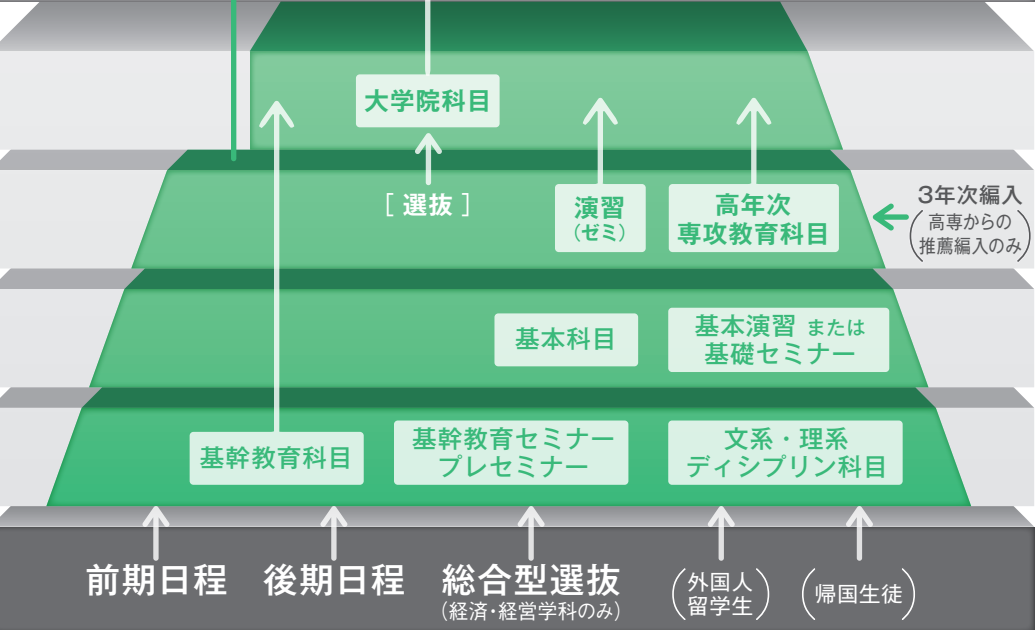
学士課程

4年

3年

2年

1年



ゼミ紹介

「九大経済学部に入って良かったと実感した」——3年次生になってゼミ（演習）で勉強を開始した経済学部生の多くが、毎年こうした感想を寄せています。ゼミでは、1-2年次に身につけた経済学の基礎知識をもとに、より専門的な理論的・実践的課題に挑戦します。大学で勉強することの醍醐味が、そこにあります。九州大学経済学部では、ゼミは「必修科目」で、卒業までに必ず履修しなければなりません。また、受講人数も平均4~6名、最大でも約10名と決められており、教員によるきめ細かい指導が行なわれています。ここでは、異なる分野から6つのゼミをピックアップして、ゼミでの勉強について紹介しましょう。

潮崎 智美 ゼミ

経済・経営学科

財務会計を専門とする本ゼミでは、ビジネスパーソンとなるのに不可欠な会計学の知識やスキルをまず修得します。さらに、会計を通じて見えるグローバル化の諸問題についても研究します。ビジネスの言語ともいわれる会計のルールでさえもなぜ国や地域で異なっており、なぜ統一させるのが難しいのか。経済的・政治的・社会的環境の影響を受けて形成されている各国の会計の状況、その国際的相違、ならびにその相違を減少させる取り組みなどの研究を通じて、考え方の異なる他者の価値観・信念をいかに受容していくか、いかに共有していくかといった未解決の社会経済的問題に挑みます。

また、ゼミでは、学生の自主性を尊重しながら、ゼミ内でのグループワーク・ゼミ合宿、学内外・国内外の研究室との合同ゼミ・交流会、国内外の企業や監査法人の訪問・インタビュー、国内外での研究発表などを積極的にに行い、専門性・国際性・社会性・人間性を養っています。これらの経験を通じて、経済・経営の知識やスキルの修得にとどまらず、人間的に魅力のあるリーダーを育成することを目的としています。

水野 敦子 ゼミ

経済・経営学科

開発経済を専門とする水野ゼミでは、開発途上国・地域の経済開発について学びます。ゼミ学習は、やや専門的なテキストの輪読から開始します。輪読を通じて開発経済の基礎的な知識を修得し、開発途上国の抱える課題を考察します。また、日本の開発途上国に関わる機関を訪問し直接話を聞くことで、理解を深めます。これまで JICA 九州、途上国へ技術支援をしている福岡市水道局や外国人技能実習生を受け入れている大山農協・阿蘇農協などを訪れました。2023年には、タイのバンコクでゼミ合宿を行い、調査を実施しました。

3年生は、メンバーの研究関心を考慮してグループを編成し研究に取り組みます。例年ゼミ生数に応じていくつかのグループに分かれ、各々で研究課題を設定します。資料収集に手間取ったり、研究分析が順調に進まなかったりといった苦勞もしますが、学内外のインゼミでプレゼンを行い、研究成果をまとめあげたときには、達成感を味わうことができます。

4年生は、グループ研究の経験を生かしてゼミ論文を作成します。これまでに100名以上の卒業生が、企業や官庁に就職したり、大学院に進学したりと様々な進路に進みました。現在は、3・4年生17名が共に学んでいます。

藤井 秀道 ゼミ

経済・経営学科

日本経済論を専門とする藤井秀道ゼミでは、定量的なデータを活用した分析により、日本経済の強みや課題について学びます。このゼミで大事にしている点は①学生が自ら手を動かしてデータセットの構築や分析を行うこと、②他の学生の研究報告に対して質問をすることです。

次にゼミでの活動について紹介します。2025年度は世界最大級の金融情報・データ提供企業である Bloomberg が主催する経済データを活用したアプリ開発コンテスト [Kyushu Code Crunch] に参加しました。Kyushu Code Crunch では Bloomberg 社が提供する世界各国の企業財務情報とプログラミングコードである Python を活用して、福岡銀行及び西日本シティ銀行の方々と共に、投資家の活用を想定した使いやすいアプリの開発を行いました。藤井ゼミの学生が作成したアプリが高く評価され、審査員特別賞を受賞することが出来ました(写真[上]を参照)。

4年生では、3年生で実施した調査の経験を生かして卒業論文を作成します。研究内容はポスター報告会などで発表を行い、自分の考えを他者に伝えるスキルを身につけます。これまでの8年間で70名の卒業生が、企業や官庁に就職したり、大学院に進学したりと様々な進路に進みました。現在は、3・4年生16名が共に学んでいます。



【上】欧州中央銀行訪問
【下】海外の特別講師を迎えるゼミ風景



【上】インナーゼミの終了後に
【下】バンコクでの産業展見学



【上】Kyushu Code Crunchの表彰式の様子
【下】集合写真



宮崎 毅 ゼミ

経済工学科

「財政」というと、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか？財政赤字、税金、役所の仕事などが挙がると思いますが、財政とは政府部門における経済活動のことで、その中には歳出、歳入、税制などが含まれます。したがって、財政について研究する学問である「財政学」は、学術分野の一つであるとともに実際の政策と密接に関連した実務的な学問ということが出来ます。本ゼミでは、この財政学を学習しています。学術的な背景を無視した議論も多く行われているのが現状ですが、本ゼミでは、経済理論に基づいた「本物」の財政学、また財政学を学習するために必要なミクロ経済学や計量経済学を学習します。海外には多くの定評ある教科書があること、英語で学ぶ経験をしてもらうため、財政学は英語の教科書で学習しています。オリジナルな研究を論文にすることが研究の醍醐味なので、最終的には全員論文を執筆しています。なお、一緒に勉強する仲間との交流を図るため、定期的にコンパやゼミ合宿(夏)、スポーツ大会も実施しています。

北原 知就 ゼミ

経済工学科

北原ゼミでは、数理計画法および関連分野について学んでいます。数理計画法とは、現実の意思決定問題を数学的にモデル化し、アルゴリズムを用いて効率的な解決を目指す方法論です。物流や生産計画、AIや機械学習とも関わりが深く、幅広い分野で活用されています。

今は生成AIに聞けば多くのことが分かり、ネットにも優れた教材が豊富にあります。そのような時代に、大学で学ぶ意義はどこにあるのでしょうか。私は「正しさを見極める力」と「人との対話の場」にこそ価値があると考えます。生成AIが出す答えもネットに溢れる情報も常に正しいとは限らず、自ら考えて判断する力が不可欠です。また、多くのことがオンラインで完結する今だからこそ、対面での学び合いが大切だと思います。

北原ゼミでは、こうした問題意識のもと、数理計画法の学習を通じて思考力や議論する力を養うことを目指しています。思考の型を学び、自分を鍛えたい方の参加をお待ちしています。

小室 理恵 ゼミ

経済工学科

小室ゼミでは、時間変化による現象を微分方程式で表すことを中心に学習しています。3年次に教科書を精読して数学的な基礎知識とその応用を身につけ、4年次には発展的な内容の書籍や論文を読んで応用力を養います。また、ソフトウェアを用いて結果を解析する方法も学習します。4年次後半には、それまでの学習のまとめとして、個人あるいはグループで卒業研究を行います。興味のある現象を選択してそれを微分方程式で数式化し、その結果を解析する等して卒業研究レポートにまとめます。最近の卒業生は、「社会の流行」、「景気循環」、「交通渋滞」等のテーマで卒業研究を行いました。これらは互いに何の関連もないように思えるかもしれませんが、数学の問題として考えると、どれも微分方程式で説明できるというのが興味深いのではないのでしょうか。

知識を積み重ねていくので、2学年合同の授業は難しいのですが、せっかく同じゼミに所属しているので、ソフトウェアの講習会を一緒に行ったり、4年生の卒業研究発表会に3年生に参加してもらって3・4年生が顔を合わせる機会を年に何度も設けています。また、皆で集まってピザやケーキを食べたり、学外で会食する等して親睦を図っています。



[上] 新歓コンパ写真
[下] ゼミ合宿の様子



[上] ゼミの様子①
[下] ゼミの様子②



[上] ゼミ風景
[下] 会食



教員紹介

九州大学経済学部では、経済学の各分野の第一線で活躍する教授陣が、講義やゼミ（＝少人数クラスの「演習」科目の略称）を担当しています。ここでは、各教員の専門分野と担当講義・ゼミについて紹介します。各教員の研究内容や著書などについて、さらに詳しく知りたい皆さんは、「九州大学経済学部ホームページ」*の「教員紹介」に是非アクセスしてみてください。また、それぞれの講義やゼミの目標や内容をより詳しく記した「シラバス」は上記ホームページの「授業日程・時間割・シラバス」から確認できます。併せて参照ください。

* URL: <https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/>



加河 茂美

KAGAWA Shigemi

経済統計

[研究テーマ]



- ①循環型社会経済システムの環境経済評価
- ②持続可能な消費行動分析
- ③国際貿易とエネルギー・環境の関係分析

[講義・ゼミ紹介]

私の学部担当講義は、主に2年次生を対象とした『計量経済学Ⅰ』、『外国書講読（英語経済）』、『現代経済システム基本演習』の3つです。『計量経済学Ⅰ』の講義では、家計消費や国民所得といった様々な社会経済統計間の関係を数量的に分析するための基本的な手法について解説し、計量経済学の入門コースを提供しています。『外国書講読（英語経済）』、『現代経済システム基本演習』の講義では、それぞれ、経済システムと環境・資源管理の関係について論じた英語文献、日本語論文の内容についての発表を行い、英語文献の読解力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を鍛えるだけでなく、地球温暖化問題、エネルギー問題、埋立処分場問題、廃棄物リサイクル問題、廃棄物輸送問題の核心ならびにその経済学的な処方箋について学習しています。



中石 知晃

NAKAISHI Tomoaki

統計計量分析

[研究テーマ]



- ①生産活動の持続可能性分析
- ②消費者行動の持続可能性分析
- ③サプライチェーンの持続可能性分析

[講義・ゼミ紹介]

主な担当講義は、「社会統計（統計計量分析）」です。複雑化する情報社会において、企業経営や生産マネジメントにおける意思決定は、勘や経験に頼ることのない「定量的」かつ「客観的」な評価基準に基づいたものである必要があります。本講義では、生産活動の効率性を定量的・相対的に評価するための手法である「データ包絡分析」や関連する統計的手法について学習し、事実ベースかつ多角的な視点から物事の本質を捉えるための能力を養います。

ゼミでは、経済における重要なステークホルダーである「生産者（もしくは消費者）」の「持続可能性」に着目した分析を行っています。具体的に、3年生の前期には、環境経済学（資源・エネルギー経済学）や計量経済学の基礎的な知識をグループによる輪読形式で学習します。3年生後期からは、興味関心のある分析テーマを各自決めてもらい、アンケート調査や公開データ等をベースに、エクセルや統計ソフトウェアを用いた実証データ分析を行っていただきます。日頃のプレゼンテーションや質疑応答、課外活動等を通して、社会人として重要な4つの能力（分析力；思考力；実行力；伝達力）を養うことも目指します。



八木 信一

YATSUKI Shin-ichi

財政システム

[研究テーマ]



- ①地域環境ガバナンスと地方財政
- ②地方自治における橋渡し組織と地方財政

[講義・ゼミ紹介]

主な担当講義は、3・4年次生を対象とした「地域政策」です。とくに、都道府県や市町村といった地方自治体が担う地域政策（自治体地域政策）と、それを支える地方財政との関係について、「三割自治」という日本の特徴から三位一体改革やタ張市の財政破たんなどの動向までを網羅しつつ、現実や現場をつねに意識した上で理解できるようにしています。

また、ゼミでは、自治体地域政策や地方財政に関する専門文献の輪読はもちろんのこと、それに加えてゼミ論文を作成し、学内外で報告の機会を設けています。これまで、北部九州港の港湾政策、博多の屋台を通じた地域活性化、および都市における単身高齢者問題の分析などをテーマとして取り上げ、現状分析や課題提示だけでなく、具体的な政策提言も行ってきました。みんなとともに学び、夢を語り合い、悩みを共有し、そして現実をより良い方向に変えていく。そんな高い志を持った、（私も含めた？）若人が集うゼミです。



前田 真一郎

MAEDA Shinichiro

金融システム

[研究テーマ]



- ①アメリカの金融システム
- ②リテール・ファイナンス
- ③キャッシュレス決済の進展

[講義・ゼミ紹介]

主な担当講義は、3・4年次生を対象とした「金融システム」です。世界各国にて異なる形で形成されてきた金融システムは、金融グローバル化の進展や金融技術革新によって結び付きを強めています。その動きを見ることにより、現代における金融システムがどのように形成されてきたのかを学びます。その理解をもとに、現代経済におけるさまざまな事象・動向を金融システムの側面から考察します。

ゼミでは、「グローバル化と金融」をテーマに、グローバル化する経済のなかにおける金融の役割について考察します。金融の理論を踏まえたうえで、現代において世界的に進んでいる事象（例えば、シェア経済やフィンテックなど）をもとに、その広がりや金融との関係を幅広い視点で見えていきます。各グループでの研究発表および全体討論を行い、研究成果をプレゼンテーション大会やインターゼミ等で発表します。また実際に企業の方をお呼びし、討論を行う機会も設けています。



チャップマン アンドリュー

Andrew Chapman

エネルギー経済

[研究テーマ]



- ① エネルギーシステムの持続可能性評価
- ② 低炭素社会への移行に伴う社会的公平性
- ③ 水素社会導入の経済・環境・社会分析

[講義・ゼミ紹介]

私は現在カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所でマルチスケール構造科学ユニットにて低炭素エネルギーシステムへの転換を中心に研究を進めています。経済学部での担当講義は「エネルギー経済」となり、講義ではエネルギーシステム、エネルギー政策、そして持続可能性評価の三つのサステナビリティ軸を考慮しながら学びます。講義、プレゼンテーション、ディスカッションを通じて、サステナビリティの包括的な評価について議論します。エネルギーシステムの変化、エネルギー政策実施等がもたらす経済、環境、社会指標への影響に着眼点を置き、評価基準や持続可能性の定義についても議論し、システム全体を考える人材を育てたいと思っています。「エネルギー経済」に加えて、「GproE」、経済学部グローバル・ディプロマプログラムの教育に関わります。経済学、エネルギー経済等の教育と共に、海外での留学経験を最大限に活用できるよう、九大生をサポートしたいと思っています。



水野 敦子

MIZUNO Atsuko

開発経済

[研究テーマ]



- ① 開発途上国農村の経済構造変動
- ② 低所得国の工業化と縫製業
- ③ ミャンマー経済研究

[講義・ゼミ紹介]

主な担当講義は、2年次生向けの「政治経済学」と、3・4年次生向けの「開発経済」です。「政治経済学」では、政治経済学の基礎を理解したうえで、資本主義の歴史的背景と動態について学びます。

「開発経済」では、時系列的発展を意識しつつ総括的に基本的な理論と開発の課題について説明したうえで、具体的な事例を取り上げつつ現代の開発課題を学びます。

ゼミでは、開発途上国・地域の経済開発について学びます。テキストの輪読や国際開発援助を行っている機関への訪問などによって開発課題への理解を深めます。次いで、3年生ではグループを編成し研究に取り組み、4年生でのゼミ論文の作成に向けて主体的な学習力を養います。



今田 青冶

IMADA Seiya

生態経済学

[研究テーマ]



- ① 環境負荷の経済的評価
- ② 環境政策における責任・負担配分の分析
- ③ 持続可能な経済システムの構造分析

[講義・ゼミ紹介]

私が学部で担当している講義は「生態経済学」です。生態経済学は、経済を自然環境から切り離して考えるのではなく、自然環境の中に組み込まれたものとして捉える学問です。私たちの経済活動は、森林、生物多様性、清浄な大気や水など、さまざまな自然の恵みに支えられています。一方で、経済成長はしばしばこうした自然を損なうことによって成り立ってきました。本講義では、自然環境の制約を踏まえながら、経済活動のあり方を資源、市場、政策の観点から考えます。また、生態経済学の基本的な考え方である「持続可能な規模」「公正な分配」「効率的な配分」について学びます。

ゼミでは、3年生前期に、生態経済学に関する文献をグループで読み、基礎知識を身につけます。3年生後期からは、各自の関心に応じて研究テーマを決め、卒業論文の作成に向けて研究を進めます。データ分析や研究発表を通じて、資料作成力、発表力、質疑応答力を高めるとともに、自分の考えを論理的に整理し、他者にわかりやすく伝える力を養います。



藤井 秀道

FUJII Hidemichi

現代日本経済論

[研究テーマ]



- ① 環境保全と経済成長の両立可能性
- ② 持続可能な開発目標とESG経営
- ③ 技術の研究開発戦略分析

[講義・ゼミ紹介]

私の学部担当講義は、主に3・4年次生を対象とした「現代日本経済論」です。「現代日本経済論」の講義では、経済の変化を理解するための基本的な視点を身につけるとともに、戦後から今日における日本経済の変遷について紹介します。さらに現在の日本経済が直面する多様な課題について論じるとともに、学生自身で政府統計や企業の有価証券報告書を活用し、日本経済の現状について理解を深めることを目指します。

次にゼミについて説明します。3年次のゼミでは、既に発表されている研究論文の調査を進め、「企業」、「環境」、「技術」をキーワードとしたテーマで、どのような研究がこれまでに行われてきたのかについて理解を深めます。その中で、これまでの研究では明らかになっていない点を明確にし、研究テーマの設定を行うことを目的とします。4年次のゼミでは一人一人が専門分野を持って、さらに文章を書く技術を身につけ、卒論を仕上げしていきます。卒論は、各学生が興味を持った研究テーマに沿って、論文題目を決定していきます。卒業論文を執筆していく過程で、見やすい発表資料の作成方法や、データの整理方法など、社会人として働く中で必要不可欠なスキルを身につけることを目指します。



福田 峻

FUKUDA Ryo

産業政策

[研究テーマ]

- ①国土計画・地域計画
- ②都市システム
- ③産業集積



[講義・ゼミ紹介]

主な担当講義は、3・4年次生を対象とした「産業政策」です。現代の経済は市場メカニズムを基本として運営されていますが、実際には中央政府や地方政府によって様々な政策的介入が行われています。一方で、理論的に正当化される政策と実際に展開される政策にはしばしば乖離が見られます。産業政策を裏付ける理論について解説するとともに、身近な事例を含めた実際の政策と対応した理解を目指します。

ゼミでは、都市・地域に関わるトピックを、産業政策に限らず様々な視点から研究します。文献講読やGIS(地理情報システム)演習を通じて知識や技術を習得した上で、個人で自ら研究課題を設定し、卒業論文を執筆します。過去に扱われたテーマは自治体財政、サテライトオフィス、ゆるキャラ、プラットフォーム・ビジネスなど多岐にわたります。一つの事柄に集中して取り組んだ経験は、卒業後の人生でも必ず生きると信じています。



安田 聡子

YASUDA Satoko

産業技術

[研究テーマ]

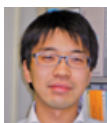
- ①イノベーション・マネジメント
- ②オープン・イノベーションと産学連携
- ③高度人材の国際移動とイノベーション



[講義・ゼミ紹介]

新技術が誕生して新しい製品・サービスが生まれ、それが普及して経済効果が発生し、新産業が形成され、さらには企業経営や人間生活にまで影響を及ぼす長い過程は、「イノベーション・プロセス」と呼ばれています。このプロセスは、「知識創造」、「価値創造」、「価値獲得」という3局面に分けることができますが、それぞれの局面で、興味深い現象が報告されています。有名な「オープン・イノベーション」論は、「知識創造」局面で、自社の発明と他社の知識を戦略的に組み合わせることの重要性を説いています。ビジネスパーソンに人気の「破壊的イノベーション」は、「価値創造」と「価値獲得」の局面で、正しい経営者が判断を誤るという興味深い現象を報告し、そのメカニズムを明らかにしています。

ゼミではまず、イノベーションはあらゆる人々・組織、制度の影響を受けながら形作られるという、「イノベーション・エコシステム」の概念枠組みを修得します。それを応用しながら「第4次産業革命と企業マネジメント」、「新産業の誕生・成長と制度の関係」についてディスカッションを重ね、最終学年での卒業論文につなげていきます。



與倉 豊

YOKURA Yutaka

産業配置

[研究テーマ]

- ①産業集積論
- ②地域イノベーション
- ③経済地理学



[講義・ゼミ紹介]

身近な産業を見渡すと、ある産業は特定の地域や都市に集中し、また別の産業では分散して立地するというような事例を見つけることができます。3・4年次生を対象とする「産業配置」では、そのような企業や産業の立地の違いについて、産業の特性や、立地主体である企業を取り巻く様々な外部環境に着目します。講義では、特に立地論の観点から、産業立地に関する話題を取り上げ、豊富な事例から実態を理解していくとともに、産業立地の諸課題を扱う際に役立つ数理的な手法についても紹介します。

ゼミでは地域経済や産業地域をめぐる様々な現代的テーマに関して、「経済地理学」を土台とした研究を遂行していきます。経済地理学は経済活動の地理的な側面に光を当てる学術分野なので、対象地域も対象産業も様々なものが考えられます。専門的な論文の輪読を通じて、地域経済を分析するためのアプローチを学び、4年次には卒業論文の作成を目指します。



堀井 伸浩

HORII Nobuhiro

産業構造

[研究テーマ]

- ①中国の市場経済移行と産業構造変動
- ②中国のエネルギー産業・環境産業
- ③中国の大気汚染問題と環境政策



[講義・ゼミ紹介]

米中対立の下、中国経済の先行きは暗いという報道が目立ちますが、果たしてそうでしょうか？過去半世紀近く、年率10%近い高度成長を続けてきた中国経済の実力とそれを支えてきた産業の発展は他の国の追従を許さない高みに到達しつつあります。中国経済を支える産業とその構成要素である企業を調べることで、中国の強さについて、また逆に直面している課題について、具体的に理解できます。私が担当している「中国語経済」と「産業構造」はそうした観点から日本との比較も交えて分析します。

ゼミではグループに分かれて個別産業のリサーチを行います。グループは日本人学生と中国人留学生で構成され、知の国際協働のプラットフォームとなります。

日本人の中国に対する印象は悪化していますが、非常に魅力のある国・人ですし、中国を知る人が少なくなっていく状況で中国通であることの価値は高まっています。



鷲崎 俊太郎
WASHIZAKI Shuntaro

日本経済史

[研究テーマ]

- ①日本経済史
- ②近世・近代都市の土地市場史・不動産経営史
- ③近世日本の生産要素市場史



[講義・ゼミ紹介]

2年次の基本科目「経済史Ⅰ」と、3・4年次の専門科目「日本経済史」を担当しています。「経済史Ⅰ」では、16～20世紀のアジアと欧米の関係に着目しながら、日本の経済や企業経営の果たした役割を探究します。「日本経済史」では、1600年代から1930年代の400年間にわたる日本の経済システムの変遷と意義を学びます。

ゼミでは、徳川期～近現代の日本経済について、現代の諸問題と比較しながら分析できる能力を身につけます。本年度は、11月に関西大学・福岡女子大学・西南学院大学・公立鳥取環境大学・流通経済大学との六大学インターゼミを開催し、12月には経済学部内の4ゼミ（他に堀井・北澤・水野の各ゼミ）で合同の報告会を開催し、1年間の研究成果を披露しています。『歴史は講義室で起きているんじゃない、現場で起きているんだ！』をモットーにして、日本経済に関わる博物館や工場を訪問したり、図書館・資料館で文献を収集してみたりと、校外学習（フィールドワーク）を重視している点が、鷲崎ゼミの特徴です。



北澤 満
KITAZAWA Mitsuru

産業社会史

[研究テーマ]

- ①近現代日本産業史
- ②近代日本経営史
- ③近代日本の産業発展と実業教育



[講義・ゼミ紹介]

3・4年次生を対象とする「日本経済史」では、江戸時代（近世）～高度成長期について、日本経済の歴史を概観します。ここでは、一つのことがらについて複数の見方・考え方がありうること（「正しい見方」は一つではないこと）を学習してほしいと思います。ほとんどのみなさんにとって、関心があるのは現代（または未来）の日本経済でしょうが、それを考えるうえで、現代日本経済の成り立ちを考えることも、重要な作業です。

ゼミでは、広く日本の産業社会について学んでいます。さらに細かいテーマは、参加学生の希望にあわせているので毎年かわります。これまで、日本の財閥・企業家活動・談合の成り立ちなどについてテキストを購読したり、研究発表をしたりしてきました。また、工場や資料館などの見学も、活発に行っています。



左近 幸村
SAKON Yukimura

経済史入門、経済史Ⅱ、
欧米経済史特研

[研究テーマ]

- ①ロシア帝国論
- ②ロシア経済史。特に海運
- ③ロシア極東の歴史



[講義・ゼミ紹介]

主に2年生を対象とした「経済史Ⅱ」では、貨幣論や工業化、グローバルヒストリーなど、西洋経済史やアジア経済史に関する最新のトピックを取り上げてきました。学生の皆さんには、こうした経済史の潮流を理解するのはもちろんのこと、それらへの「批判的」視点を持つことも、求めています。ほかに、「外国書講読」では、経済史に関する基本的な英語のテキストを読んでいます。

ゼミでは、その時々メンバーを見ながら、ロシア史や経済思想史に関する文献を読んでいます。高校の世界史B（もしくは探究）レベルの知識は必要であり、不足しているなら、自分で勉強してもらいます。卒論を書くことも求めています。テーマは自由です。昨年度の卒業論文のテーマは、「イギリスの帆船の歴史」や「アダム・スミスとジョセフ・スティグリッツの比較」から、映画論や韓国の芸能事務所の問題まで、さまざまでした。

講義であれゼミであれ、経済の歴史を見ることで、私たちの経済的な常識を見直すことを、最終的な目標としています。



大坪 稔
OTSUBO Minoru

経営政策

[研究テーマ]

- ①経営財務に関する実証研究
- ②コーポレートガバナンスに関する実証研究
- ③リストラクチャリングに関する実証研究



[講義・ゼミ紹介]

講義は、「経営学」と「経営政策」を担当しています。「経営学」は主として2年生を対象としており、株式会社の仕組みや日本企業に特徴的と考えられてきた経営手法について学習します。企業には、株式会社をはじめとして、合名会社や合資会社など様々な形態が存在します。他の企業形態と比較して、株式会社にはどのようなメリットやデメリットが存在するのか、などについて学習していきます。

「経営政策」は、3年生以上を対象としており、日本企業がこれまでどのように資金調達を行ってきたのかについて学習します。そのうえで、現代の大企業の主要な資金調達手段である株式や社債にはどのような種類があり、これらの理論価格をどのように計算するのかについて学習します。

また、ゼミでは経営財務について学習します。経営財務は、資金調達や投資決定など企業経営のなかでもお金に関連した分野を対象としています。さらに、現実の企業がどのように経営を行っているのかについて各学生に自分の興味のある企業を選んでもらい、財務分析を行ってもらいます。



岸野 早希

KISHINO Saki

人的資源管理

[研究テーマ]

- ① 人的資源管理論
- ② ワーク・ライフ・バランス
- ③ 働き方改革



[講義・ゼミ紹介]

講義は2年次の基本科目「経営学」と3・4年次の専門科目「人的資源管理」を担当しています。「経営学」の講義では多くの皆さんが卒業後に所属することになる企業組織内の人々の相互作用の中で起こる現象を捉えるとともに、それぞれの現象に対してどのような管理がなされているのかを学びます。「人的資源管理」ではヒトという経営資源が企業組織のなかでどのように管理されているのか、また、ダイバーシティ・マネジメントやワーク・ライフ・バランスといった現代的なトピックスについても学びます。

演習では人的資源管理論に加えて組織行動論といった隣接する学問分野の基礎を固め、グループ研究を通じて研究方法を学び、そして4年次には卒業論文の執筆に取り組んでいただきます。



大石 桂一

OISHI Keiichi

企業会計

[研究テーマ]

- ① アメリカの会計規制
- ② 会計規制の国際比較
- ③ PFIの会計



[講義・ゼミ紹介]

私が担当している主な講義は「会計学Ⅱ」と「企業会計」です。2年次生向けの「会計学Ⅱ」では会計学の基本を学びます。3・4年次生向けの「企業会計」は会計学の応用編ですが、決算書の読み方、会計数値をもとにした財務分析、会計学の理論などを学習します。

ゼミのテーマは「会計を使いこなす!」です。理論やルールの学習だけでなく、実際にプレーすることが大事なのです。具体的な題材は参加者が自主的に決定するというのが大石ゼミの原則で、実際の企業の財務諸表分析、経営戦略分析、企業価値評価など、これまで様々なことを行ってきました。こうしたゼミでの学習を通じて、企業会計と経営に関する理解を深めることができるだけでなく、プレゼンテーション&ディスカッションの力も身に付けることができます。また、公認会計士や税理士を目指す学生も多く、お互いに切磋琢磨しています。



潮崎 智美

SHIOSAKI Tomomi

財務会計

[研究テーマ]

- ① 国際基準の導入に伴う大陸型会計制度の変容
- ② 会計制度・実務の国際比較
- ③ グローバルな会計基準設定



[講義・ゼミ紹介]

「英語」、「パソコン」に次いで「会計（アカウンティング）」が、現代ビジネス・パーソンの三種の神器として挙げられたり、その知識やスキルを使いこなせるかどうかによって生じる機会、待遇、貧富の格差が「アカウンティング・デバイト」と呼ばれたりするなど、会計の知識やスキルの必要性はビジネス界において広く認識されています。そして、企業会計の知識やスキルは、ビジネス界だけでなく、家計や官庁会計にも援用されてきています。

私は、「財務会計」の授業を担当しています。この授業では、経済活動を行う主体である企業が、その経済的取引をどのように認識、測定し、そこで得たデータをどのように加工処理し、株主や債権者などの企業外部の利害関係者に対してどのように報告をするかを学びます。ゼミでは、インターネットやデータベースなど使って収集した会計情報を分析する「企業分析」を実践します。このように、会計学の知識やスキルを習得することを通じて、学生のみなさんが経済学部を卒業したあと、それらを駆使してグローバルあるいはローカルな場で活躍できるような総合的な力を育成することを目標としています。





小津 稚加子
 OZU Chikako

国際会計

[研究テーマ]



- ① 会計基準の国際的統合
- ② 財務諸表の分析
- ③ エマージング・エコノミーの会計

[講義・ゼミ紹介]

「会計学Ⅱ」(2年次)では、企業が行うさまざまな活動(商品の仕入・販売、設備投資、資金の管理と運用)を財務(カネの流れ)に注目して理解します。基礎理論を学び、計算問題を解き、知識を自分のものにします。「国際会計」(3年次)では、グローバルな資本市場で活躍する企業に焦点をあてます。上場企業は国際的に資金調達をするので、これに対応して資本市場でのルールも国際的にひとつにしようとする動きがありますが、企業の実務・慣習・制度や背後にある考え方に違いがあるため容易な作業ではありません。このような動きを理論的に掘り下げつつ、実在する企業の財務報告の例を取り上げて理解していきます。

「ゼミ」(3、4年次)では、財務会計と経営分析をより深く学習します。最初に財務会計の基本書を丁寧に読み、次に財務諸表を使い、理論と実態をバランスよく学習します。グループ学習が基本ですので、先輩と後輩と一緒に学びあう場となっています。



加納 拡和
 KANO Hirokazu

日本経営論

[研究テーマ]



- ① 早期国際化現象
- ② スタートアップ企業の集積

[講義・ゼミ紹介]

講義では、3・4年次向けの「日本経営論」を担当しています。特に、日本企業がどのような戦略をとり、どのように競争で優位に立っているのかを理解・分析できるようになることを目指し、「戦略経営論」の理論的な枠組みを中心に学びます。戦略経営論は、経営学の中でも中心的な分野で、「なぜある企業は他の企業より高い成果を出せるのか」を理論的に考える学問です。本講義では、多様な理論や概念を体系的に学び、日本企業の戦略や成果の違いを客観的に捉えるための視点(レンズ)を養います。

ゼミでは、戦略経営をテーマに、3年次はテキストや論文の読み込みとグループ研究を通じて理論と研究手法を学び、4年次には各自の関心に基づく卒業論文に取り組みます。複雑な現象を理論的に分析し、事実と論理に基づいて考察する力を培います。



儲 梅芬
 CHU Meifen

外国書講読(日本語経済)

[研究テーマ]



- ① 非線形モデル分析および応用
- ② カーネル分析および金融データへの応用
- ③ マルチフラクタル性分析および金融市場への応用

[講義・ゼミ紹介]

外国人留学生を対象とする「外国書講読(日本語経済)」は、経済学部の留学生担当教員が行います。留学生の日本語能力の向上と日本経済に対する理解の伸展が主たる目的です。前(春)学期と後(秋)学期にそれぞれ開講し、前期では世界的に著名な経済学者の日本経済に関する英語文献を使い、後期では英文記事を用い、日本語で解釈・議論を行い、日本経済および世界経済に対する理解を深めます。可能な限り議論する時間を設けて発表能力を高めるとともに、レポート提出とその添削を通じて書く能力の向上を目的としています。また、企業・工場訪問の機会も設けています。外国で生活し、単位修得・卒業を目指して勉学に励んでいる留学生をサポートする授業です。「留学生」という同じ境遇にある学生同士が集う場所として、リラックスして参加してほしいと思っています。





阿部 貴晃

ABE Takaaki

応用マイクロ経済学

[研究テーマ]

- ①協力と対立が混在するゲーム理論
- ②資源配置の安定性
- ③投票システムのゲーム理論分析



[講義・ゼミ紹介]

私たちの生活には、競争・対立・交渉・協力といった他者との関わりが常に付きまといま。それらの一見曖昧で捉えどころのない対象を、ゲーム理論の力によって経済学的なモデルに落とし込み、クリアな視点で分析することを研究テーマとしています。

応用マイクロ経済学の講義では、「企業同士が競争すると物価にどのような影響があるのか」、「町の治安や景観をよくするための費用を住民から集めるのがどう難しいのか」といった身近なテーマからスタートしつつ、モデル化によって社会的問題を数理的に分析する手法を学習します。

ゼミでは、自分の力でモデルを作成し、問題を分析できるようになることを目指します。3年生は、ゼミメンバーで共通の教科書を読みそれぞれが発表を行う形式（輪読）で学習します。4年生は、各自が興味を持った内容でゼミ論文を作成することを目標とします。講義やゼミを通して、卒業時に「大学でこのような研究をしていました」と言えるようになってもらいたいと考えています。



藤田 敏之

FUJITA Toshiyuki

経済モデル解析

[研究テーマ]

- ①地球環境対策の数値モデルによる分析
- ②国際環境協定の自己拘束性に関するゲーム理論的分析
- ③環境政策における不確実性と不可逆性



[講義・ゼミ紹介]

3年次で学ぶ「環境経済学」においては、経済学部生が1・2年次で学んだ経済学の理論、手法がどのように応用されているかを中心に環境経済学の基本的な内容を概説します。ゼミでは理論に重点をおきつつ環境問題を経済学的に分析する手法を学んでいきます。ゼミは2年間で完結しますが、1年間で受講を終えても構いません。3年次ゼミでは教科書の輪読を行います。3年次ゼミの内容は上述の講義「環境経済学」の内容とリンクしているので、ゼミ受講者は「環境経済学」もあわせて受講すると理解がよりいっそう深められるでしょう。4年次ゼミでは3年次の学習を踏まえて環境政策に関する学術論文を読み、専門的な分野にふみこんで学習します。3・4年次ゼミは合同で行う予定です。年度末には受講者全員にゼミで学んだ内容についてのレポートを書いてもらいます。すべての受講者が卒業時に胸を張って環境経済学を修めたと言えるようなレベルに達することを目指し、そのサポートをします。意欲ある学生の参加をお待ちしています。



池下 研一郎

IKESHITA Kenichiro

マクロ経済分析

[研究テーマ]

- ①オートメーションと経済成長に関する理論的分析
- ②知的財産保護政策と経済成長
- ③環境経済に関するマクロ経済学的アプローチ



[講義・ゼミ紹介]

景気のよし悪しやインフレ、経済成長といったマクロ経済学的话题は、いつの時代も多くの人々の注目を集めます。私の担当する「応用マクロ経済学」という科目では、これらのトピックスについて様々なケーススタディとともに学びます。またゼミでは、少人数という環境で、マクロ経済学と関連する様々な分野や分析手法を学びます。ゼミは少人数で実施されることから、発表の準備や論文の執筆など大変なこともありますが、その分、学生は他の講義では得られない密度の濃い学びを体験できます。またゼミでは単にマクロ経済学の理論を学ぶだけではなく、その理論が現実のマクロ経済現象を説明する上でどのように役立つのかということ意識しながら学習を進めていきます。マクロ経済学を学ぶことで、社会や経済に関する体系的な見方を身につけることができると同時に、「マクロ経済学でこんなことが説明できるのか!」という体験もすることができるようでしょう。



山崎 大輔

YAMAZAKI Daisuke

計量経済学

[研究テーマ]

- ①時系列モデルにおける構造変化に関する研究
- ②パネルデータ分析における統計理論に関する研究



[講義・ゼミ紹介]

2年次生向けの「基礎計量経済学Ⅰ・Ⅱ」では、経済データを用いた実証分析を行う上で重要なトピック・分析手法を学びます。なお、講義においては、統計手法のみならず、さまざまな分析例を通して、経済データを用いた実証分析の行い方についても学んでいきます。また、3・4年次生向けの「上級計量経済学」では、より高度な計量経済学の手法などを学びます。

本ゼミでは、統計学・計量経済学の手法を学び、各自で決めたテーマについてのデータ分析を行います。ゼミでは、統計学・計量経済学・データ分析のテキストの輪読と、「R」や「Python」を用いた実習を行います。テキストの輪読と実習を通して、様々なデータを用いた分析の方法や、分析して得られた結果を解釈する方法を学びます。その後、ゼミレポートに取り組みます。ゼミレポートのテーマを決めた後に、データの収集・統計分析を行い、得られた結果をゼミレポートにまとめます。



瀧本 太郎

TAKIMOTO Taro

マクロ数量分析

[研究テーマ]



- ① 時系列分析のマクロ経済分析への応用
- ② 非定常時系列モデルの統計的推測
- ③ 一方向因果性検定のマクロ経済分析への応用

[講義・ゼミ紹介]

本ゼミでは、経済・経営データを用いながら分析を行っています。例えば、七隈線の価値がどれくらいあるのかを、七隈線の建設によりどれだけ便利になったかデータ（街の中心部までの移動時間がどれくらい短縮されたかなど）で測定し、土地の価格データなどと組み合わせ分析しています。また、過去の株価データから将来の株価を予想することができるのかどうかを、世界の主要な株価データに基づき分析しています。他には、POSデータを使用して野菜ジュース市場における各会社のマーケットシェア（各会社の商品が占める割合）を予測することや、緑茶の各商品を個人がどのようにグループ分けしているか（A社のお茶とB社のお茶は似ているが、C社のお茶は違うなど）のアンケート調査を行っています。テーマ自体はみなさんが自由に決めて、分析に必要な道具をゼミで修得しながら活発な議論を行い、最終的には卒業論文としてまとめることを目指しています。分析には無料の分析ソフトウェアを利用しています。さあ、一緒にデータ分析をしてみませんか？



村尾 徹士

MURAO Tetsushi

現代経済学

[研究テーマ]



- ① 製品レベルデータを用いた計量マーケティング分析
- ② 機械学習に基づく意思決定アルゴリズムの開発と市場競争への影響評価

[講義・ゼミ紹介]

私は主に「マクロ経済学」の講義を担当しています。マクロ経済学とは、景気循環や経済成長といった一国全体にかかわる経済現象を分析する経済学の一分野です。マクロ経済学の特徴は、様々な種類の市場を別個に分析するのではなく一括して考察することにあります。財政政策や金融政策といったマクロ経済政策は様々な市場への波及効果を持つので、こうしたアプローチをとることによって経済全体に与えるインパクトを分析できるようになります。

ゼミのテーマは「Pythonで学ぶ機械学習」です。内容は大きく分けて2つのパートから構成されています。前半のパートでは、Python言語の文法および科学技術計算で用いられる代表的な数値計算手法について学んでいます。後半の機械学習のパートでは、強化学習と深層学習の基礎を1年ずつ学んでいます。ゼミの学習目標は、強化学習や深層学習に関して、理論の初歩的な部分を理解すること、および基本的なアルゴリズムを自力で実装できるようになることです。



宮崎 毅

MIYAZAKI Takeshi

財政分析

[研究テーマ]



- ① 地方政府の合併と政府行動に関する実証分析
- ② 所得税が再配分や効率性に及ぼす影響の実証分析
- ③ 震災と政府行動の経済分析

[講義・ゼミ紹介]

消費税増税、社会保障制度の改革、財政赤字の拡大など、財政に関する様々な問題がニュースなどで取り上げられていますが、実は財政の問題を間違っ理解している人が多くいます。3、4年生用の専門科目では、こうした財政に関連する問題を学習する「財政」などを担当します。政府の役割や財政赤字、社会保障、税制などを、現実や制度、理論の面から総合的に学習します。また、学部のゼミである「経済工学演習」では「財政と地方財政」をテーマとし、理論と実証における経済学の分析ツールを用いて、国の財政や地方財政、税制に関する問題を分析・議論します。テキストの輪読や研究報告、卒業論文報告などを行うほか、懇親会やゼミ合宿を通じて勉強以外でも交流を深めていきます。最終的には、財政や地方財政の問題を経済学的に議論できるようになってもらいたいと考えています。



三輪 宏太郎

MIWA Kotaro

金融

[研究テーマ]



- ① 資産価格の実証分析
- ② 証券アナリストの行動分析
- ③ 投資家心理と株価形成

[講義・ゼミ紹介]

ファイナンス、特に証券投資論の分野に重きを置いて講義します。株式、債券などを含む様々な金融資産の仕組み、どのように投資を行うべきか（最適資産配分）、その結果、各金融資産はどのように価格付けされるか・されるべきかを、学術・実務双方の側面から学びます。

ゼミでは、証券投資論に密接に関連する、行動ファイナンス、そして、実証ファイナンスの手法について学びます。テキストを論読し、様々なケースに関して、調査・議論していただきます。また、株式データ・財務データを使った検証を通して、人間の心理がいかに投資行動・価格形成に影響を与えるのか理解を深めていただきます。



室賀 貴穂

MUROGA Kihou

労働経済学

[研究テーマ]



- ① 政策と労働市場
- ② 女性の労働供給
- ③ ジェンダー

[講義・ゼミ紹介]

少子高齢化が進む中、私たちは労働市場に関する多くの問題を抱えています。例えば、労働力人口の減少に伴い、移民の受け入れ政策や女性の就業促進政策が議論されていますが、移民を受け入れると労働市場にはどのような変化が起きるのでしょうか。そもそも女性の就業を阻んでいる原因は何でしょうか。

労働経済学では、労働参加・高齢化・教育・結婚等の私たちの生活に密接に関わるテーマを理論と実証の側面から検証します。その際に、1・2年次に学ぶ「ミクロ経済学」や「計量経済学」の知識を使用し、現実の諸問題を論理的に議論します。

ゼミでは、専門書や論文を論読し、労働経済学に関わるトピックについて討論を行います。また、具体的な実証分析手法を学び、因果推論について理解を深めます。懇親会やゼミ合宿を通じた学生同士の交流も積極的に行っていきたいと思います。意欲溢れるみなさんと学ぶことを楽しみにしています。



浦川 邦夫

URAKAWA Kunio

福祉政策

[研究テーマ]

- ① 税制・社会保障制度の政策効果に関する実証分析
- ② 主観的厚生の社会経済要因、地域要因、制度要因の分析
- ③ 分配・再分配の価値判断に関する実験的アプローチ



[講義・ゼミ紹介]

私のゼミでは公的年金、医療・介護、家族政策、生活保護といった政府の社会保障政策や高等教育などの教育政策について、私やゼミ生が持ち寄った文献をもとに学習しています。少子高齢化が進行し、社会保障や教育にかかる費用が上昇するなかで、国民の多くが現行の諸制度に対して不安を抱くようになってきました。2010年代には生活保護を受ける人が200万人を突破し、現在、GDP第三位の経済力を有する日本にも貧困の問題が広がっています。人々が安心して暮らせる社会を考えるうえで、日本や諸外国の社会保障制度、あるいは教育制度の様々な課題について学ぶことは、とても有用です。ぜひ、我々と一緒に学んでみませんか。ゼミでは、その他に今井耕介『社会科学のためのデータ分析入門』（岩波書店）、ハイルブローナー『入門経済思想史』（ちくま学芸文庫）などの書籍を通じて、計量分析の基礎や代表的な経済学説について学ぶ機会を設けています。



吉田 賢一

YOSHIDA Kenichi

企業経済分析

[研究テーマ]

- ① コーポレート・ガバナンス
- ② 日本の企業システム
- ③ 企業の社会的責任



[講義・ゼミ紹介]

授業では、「企業」という存在について、経済学を中心に、会計学やファイナンス理論など多様な学問の視点から考察し、理解を深めていきます。限定合理性、取引費用、エージェンシー理論といった理論的枠組みを体系的に学びます。

ゼミでは、企業価値や企業統治をキーワードに、自ら考え、企業を分析し、望ましい企業の姿を探る力を養います。実際の企業を対象としたグループ調査、ケーススタディ、実証分析などを通じて、理論と現実の接点を探ります。各自の関心に応じてテーマを設定し、最新の研究成果を読み解きながら、企業のあり方を多角的に掘り下げていきます。また、企業統治改革をはじめとする、現代企業を取り巻く社会の変化にも注目し、そうした最新の動向も扱います。



葉 聰明

YEH Tsung-ming

企業金融

[研究テーマ]

- ① 企業合併買収 (M&A)
- ② 企業統治
- ③ ESGと金融・資本市場



[講義・ゼミ紹介]

私のゼミでは、自分の研究分野の一つであるM&A(企業合併買収)や企業統治を中心に、海外の代表的な教科書を使い、輪読の形で勉強しています。最近では日本でもM&Aが活発になり、例えば、SBIが新生銀行にTOB(公開買い付け)を仕掛けた事例や、スーパー大手の「関西スーパー」と「オーケー」がエイチ・ツー・オー(H₂O)への買収で競い合った事例にあったように、M&Aは企業価値を高める戦略として活用されています。また、ESG(Environment, Social, Governance)経営が世界的に重視されている中、企業統治(Governance)も企業価値を高めるうえで重要な役割を占めています。教科書の輪読を通じて、M&Aや企業統治についての仕組みや論点を勉強したうえで、それらがどのように企業の価値・業績・株価に関連しているのか先行研究の結果を見ていきます。これから企業で働く学生にとっても、研究職を目指す学生にとっても、企業の経済活動を分析的な目で見る能力が身につけられるゼミを目指します。



堀 宣昭

HORI Nobuaki

産業組織

[研究テーマ]

- ① 産業発展と文化進化
- ② 宗教の政治経済学
- ③ 移民と同化



[講義・ゼミ紹介]

講義では、ここ最近では、基本科目の「ミクロ経済学」、3・4年生向けの「応用ミクロ経済学」と「上級経済理論」を担当しています。「応用ミクロ経済学」では、現代ミクロ経済学の中心的な理論的フレームワークとなっているゲーム理論とその応用を学びます。

近年のゼミでは、まず、経済学の専門論文に出てくる数理的なモデルを理解できるようになることを目指しています。そのための基礎作りとして、3年生では、ミクロ経済学の数理的な研究に必要な経済主体の最適化やゲーム理論によるモデリングの手法を中心に学びます。そのうえで、経済学のモデルが実際にどのように使われているのかを、産業組織論や経済発展論、政治経済学といった応用分野の専門論文を通して学びます。また、より視野の広い問題意識も養うために、私の研究テーマである文化進化や、それと関係する歴史学や進化人類学の文献も講読しています。



菅 史彦
SUGA Fumihiko

マイクロ計量経済学

[研究テーマ]



- ① ライフサイクルモデルを用いた実証分析
- ② 個票データを用いた、家計・個人の資産形成や就学・就労行動に関する実証分析

[講義・ゼミ紹介]

私はデータを用いた実証分析を専門としており、主にマイクロデータ（分析対象の各個人や各企業の情報を含むデータ）の分析に関する講義を担当しています。私の講義では、実際に参加者の皆さんが分析する立場になった場面を想定し、どのようにして分析を行い、得られた結果をどのように解釈するのかという実践的な側面に重きを置いています。

ゼミは、データ分析によって何がわかって何がわからないのかを知ってもらうために、『因果推論』をメインテーマにして、参加者に発表・議論してもらっています。二つの変数の関係を知りたいとき、それらの変数がデータとして与えられれば、変数間の相関関係はわかります。しかし、相関関係は必ずしも因果関係（＝原因と結果の関係）を意味するとは限りません。因果関係を明らかにするためには何かしら特別な状況や変数、手法が必要で、そのための理論・手法を『因果推論』と呼びます。統計ソフトRを使った実習を通して、『因果推論』をはじめとするデータ分析の理論・手法に関する実践的な知識と技術を、参加者の皆さんに身に付けてもらうことを目指しています。



大西 俊郎
ONISHI Toshio

数理統計学

[研究テーマ]



- ① ベイズ予測における双対性
- ② モデル平均およびモデル選択
- ③ ベイズ型一般化線型モデル

[講義・ゼミ紹介]

例として株式投資を考えてみましょう。株価は様々な要因により日々変動します。どの銘柄に投資するのがリスクを小さくし、かつ、収益を大きくできるのでしょうか？ 不確実性の下で適切な意思決定を行うにはどうすればよいのでしょうか？

この問題に対する1つの回答を与えるのが統計学です。過去のデータを分析し、将来を予測する方法論を科学する学問分野です。担当講義科目の「数理統計学Ⅰ・Ⅱ」では、(1) 基礎概念と数理的基礎を学び、(2) 代表的なデータ分析手法を学びます。ソフトウェアを使ってデータ分析が行えるようになることが目標です。

ゼミでは、近年注目を集めているベイズ統計学を学びます。IT技術の進展は複雑なモデルを使ったデータ分析の必要性を増大させました。複雑なモデルに基づくデータ分析で威力を発揮するのがベイズ統計学なのです。ちなみにベイズとは18世紀の数学者Thomas Bayesに由来します。



北原 知就
KITAHARA Tomonari

数理計画

[研究テーマ]



- ① 線形計画問題に対するアルゴリズムの理論的解析
- ② 経済学における問題に対する数理計画法によるアプローチ
- ③ 数理計画法の現実問題への応用

[講義・ゼミ紹介]

学部生向けの講義では、主に「数理計画法」を担当します。現実の意思決定問題を数学的にモデル化し、得られたモデルをアルゴリズムを用いて解くことによって、効率的な意思決定を目指す方法論です。数理計画法が役立つ分野は多岐にわたり、講義では様々な数理計画モデルやアルゴリズムを勉強します。

ゼミでは、数理計画法に関する文献の講読や、実際に意思決定問題を数理計画法を用いて解決することなどを通して、

- ・数理的問題解決能力
- ・コミュニケーション能力
- ・プログラミング能力
- ・英語力

の4つをバランスよく伸ばし、幅広い分野で活躍できる人材になってもらうことを目指します。少しでも数理計画法に興味を持った方は、ぜひ当ゼミをご検討ください。



小室 理恵
KOMURO Rie

経済数学

[研究テーマ]



- ① 数理モデリング
- ② 多目的遺伝的アルゴリズム

[講義・ゼミ紹介]

経済学を勉強する上で、数学は「必要不可欠な道具」と言っても言い過ぎではないでしょう。その道具としての数学を学ぶための「経済数学」という講義を担当しています。「経済学分野に必要な数学」に絞った上で、できるだけ広範囲に渡る内容を取り上げます。

ゼミでは、数理モデリング、特に、「時間によって変化する現象を微分方程式で表す」ことを学んでいます。物理学や生物学の現象を表す際、微分方程式は非常に有効なツールですが、経済学分野においても、微分方程式を用いて説明のできる現象が様々あります。微分方程式を使って数理モデルを構築（数理モデル化）し、それを解くだけでなく、得られた解がどのようにふるまうのかを考えます。まずは微分方程式による数理モデルに慣れることを目標に、経済学に限定せず、他分野での応用も紹介しながら教科書を読み進めます。その後、コンピュータを用いた解法や分析方法を学習します。



松本 浩一
MATSUMOTO Koichi

確率モデル解析

[研究テーマ]



- ① 確率論のファイナンスへの応用（数理ファイナンス、金融工学）
- ② デリバティブの価格付け
- ③ リスク測定

[講義・ゼミ紹介]

松本ゼミは数理ファイナンスや金融工学の学習を通じて、社会で役立つ知識と能力を身につけることを目指すゼミです。金融工学の専門知識を生かした職務を志望する人、研究者を目指す人、数学の社会への応用に興味のある人などが参加しています。

ゼミで学ぶ数理ファイナンス、金融工学は、金融機関における投資、リスク管理、商品開発などのために発展してきた学問です。最近では、天候、地震、不動産、企業経営に伴う事業リスク等も研究対象となっており、様々な分野で応用されています。

ゼミは、専門書を分担して担当者が説明し、質疑応答を行うセミナー形式で行います。レベル別に分かれ、少人数で行うのが特徴で、全員がしっかりと予習して参加することが求められます。先端的なファイナンス理論には確率微分方程式などの高度な数学が必要となりますので、数学とファイナンスの双方の専門知識をバランスよく、体系的に積み上げるような学習を行っています。



伊豆永 洋一

IZUNAGA Yoichi

情報管理

[研究テーマ]

- ① クラスタリングに対するモデリングとアルゴリズム設計
- ② 社会科学や工学における諸問題に対する数理的アプローチ
- ③ オペレーションズ・リサーチ



[講義・ゼミ紹介]

近年、機械学習に代表されるように大量の情報を収集・認識し活用する技術が目覚ましい発展を遂げています。私の学部担当講義「情報システム」では、機械学習の技術（特に教師あり学習と教師なし学習）の背後にある統計的モデリング手法やアルゴリズムの基礎について学びます。

3年次のゼミでは、専門書の輪講とディスカッションを通して機械学習（情報の解析と利活用の手法）と数理最適化（意思決定の手法）の基礎について学びながら、並行してコンピュータを用いた演習を行います。4年次のゼミでは、各自（あるいは数人のグループ）で興味のあるテーマを設定し3年次に学んだ知識を用いて数理的な立場から検討し解決を試みます。対象とするテーマについては、特定の領域に限定せず社会科学や工学などの幅広い領域から設定してもらえればと思います。一緒に考えていきましょう。



李文

LI Wen

社会情報学

[研究テーマ]

- ① 労働経済学の実証分析
- ② 高等教育
- ③ 社会移動



[講義・ゼミ紹介]

私が担当する講義は「社会情報学」と「データサイエンス入門」です。両科目は、経済学のアプローチを踏まえ、データを「道具」として有効に活用する力を養います。

様々な経済現象や社会現象の背後にある構造を理解するために、回帰分析や因果推論などの手法をRなどの計量ソフトで実践し、客観的根拠に基づいた政策評価の重要性を学びます。授業では英語の論文も取り上げ、最新の研究動向を国際的な視点から紹介します。

「経済工学演習（ゼミ）」では、学生各自が関心のあるテーマを設定し、データ駆動型の経済分析を行います。具体的な研究対象は、社会移動・教育リターン・労働参加・ジェンダー格差など、現代経済が抱える多様な課題です。文献の輪読で理論的背景を確認したのち、計量ソフトウェアを用いた実証分析に取り組み、結果の可視化と討論を通じて理解を深めます。最終的には卒業論文としてまとめ、「事実が意見に勝る（Facts over Opinions）」を体感してもらうことを目指します。

データ分析の経験がない方でも、ゼミ内で基礎からサポートします。「社会を観察する力」、「データを分析し解釈する力」を、一緒に学び身につけてみませんか。

[column]

ビジネスの最先端の課題について学ぶ

九州大学経済学府（＝大学院）には、2003年に「九州大学ビジネス・スクール（通称QBS）」が開設され、研究者の教員とともにビジネス界で豊富な実務経験を有する教員が、MBA（経営修士）を目指す高度専門職業人の養成を行っています。経済学部（経済・経営学科、経済工学科）では、このビジネス・スクール担当教員が交代で講義を担当しています。これらの講義により、産業界・金融界の最先端の課題について豊富な事例を通じて学ぶことができます。

ここでは、ビジネス・スクール担当教員による学部講義について紹介しましょう。

九州大学
ビジネス・スクール(QBS) ▶
ホームページ

<https://qbs.kyushu-u.ac.jp/>



講義名 「国際マーケティング」 担当教員 広垣 光紀



広垣 光紀 准教授（2025年度担当）

国内市場の成熟化や少子高齢化が進む中、多くの企業は成長の機会を求めて海外市場への展開を加速しています。こうした環境において、異なる文化や市場環境を持つ世界各国の消費者に対し、どのように製品・サービスを提供し、持続的な競争優位を確立するかが重要な課題となっています。

本講義では、グローバルマーケティングの基礎理論を体系的に学びつつ、企業事例やケーススタディを交えて実践的な視点を養います。講義を通じ、各国市場の文化的特性や市場構造を踏まえた上で、標準化と適応化のバランスを取りながら、効果的なグローバルマーケティング戦略を構築・提案できる力を身につけることを目標とします。

皆さんと講義でお会いできることを心待ちにしています。

卒業生・修了生からのメッセージ

九州大学経済学部出身のたくさんの先輩たちが、**産・官・学**の世界で活躍されています。大学での学び、生活、交友関係などが、現在の人生や仕事にどのように繋がっているのかを中心に、8名の先輩に語っていただきました。



中島 蓮 NAKASHIMA Ren

九州大学 経済学部 卒業 (2022年3月)

就職先
(株) ベネッセコーポレーション

今このページを読んで下さっている皆様は、「九州大学や経済学部では何が出来るのだろうか」という期待と不安があるのではないのでしょうか。もちろん、唯一の答えがあるわけではありません。本人次第でも出来るからです。皆さんの大学生活が実りあるものになるためにも、私の学びと経験を少しばかりお話したいと思います。

私が大学生活で学んだことは、「自分の興味関心事にチャレンジしてみることの大切さ」です。2つの経験をお話します。1つ目は、ゼミです。ゼミとは、自分の興味のある分野の先生のもと、各々が決めた研究を協力して行う少人数クラスです。私は情報経済学のゼミで、大好きなeスポーツを題材として研究しました。キャンパス内の充実した

図書館や施設を利用しながら、先生や先輩方、優秀な仲間アドバイスを頂き完成したゼミ論は、情報通信総合研究所のディスカッション・ペーパーにも掲載することができました。先行研究の少ない研究テーマでしたが、研究室の皆さんとブレイン・ストーミングを重ね、分析手法を学んだり、文献を集めたりと、アクティブな学びを実践することが出来ました。

2つ目は長期インターンです。経済について、「実社会で色んなことを学べそう! チャレンジしたい!」と思い、いくつかの企業で取り組みました。決して就活のために取り組んだわけではありませんが、特に映像やデザインについて学んだことで、様々なプレゼンの機会に活かすことができました。インターンで体験した締切の厳しさや念入りな調査などは、大学生活においても提出期限を守ることや、卒業研究の調査でとても役立ちました。

こうした学生時代の経験から、私が皆さんに伝えたいことは、「自らの興味関心に是非チャレンジして欲しい」ということです。九大にはその環境があります。皆さんも、大学で学びたいことやチャレンジしたいことを見つけ、のびのびと、かつキビキビと過ごして頂きたいと思います。



光吉 佑莉加 MITSUYOSHI Yurika

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了 (2025年3月)

就職先
デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー 合同会社

「まさか6年も通うことになるなんて。」大学生活を振り返ると、そんな言葉が浮かんできます。正直なところ、私はそこまで経済学に興味があったわけでもなく、とりあえず将来の選択肢が広そうだからという理由で入学したに過ぎませんでした。このページを読んでいる方の中にも、将来に対する漠然とした不安を抱えている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。大学での過ごし方の一例として、私の経験をお話したいと思います。

1年次には、必修科目の経済学入門を受講しました。高校で学んだ政治・経済の科目は、私にとってはただの暗記科目であり、無機質なものでしたが、大学の講義では、複雑な事象をシンプルに捉え直し、経済学の基本概念を基に現実の経済を分析しており、経済学を身近

に感じられるようになりました。2年次には、コロナ禍で自分自身を見つめ直す中で、専門性を武器に幅広い業界で活躍できるようになるため、公認会計士のスクールに通い始めました。これが現在の仕事に繋がります。

3年次には、会計以外の専門性も身に付けようと、情報経済のゼミに入りました。ハードな生活に音を上げることもありましたが、何事も鵜呑みにせず自分なりに考え、仲間と何度もディスカッションを重ねた経験は、今の私の礎になっています。4年次には、更に専門性を高めるべく、大学院進学を決めました。既存の研究では明らかにされていない新たな領域に取り組むことを求められ、戸惑いを感じることもありましたが、研究室の先生や院生とディスカッションを重ねる中で次第に問題意識が明確になり、いつか研究にのめり込んでいきました。大学時代にしかできない、貴重な経験ができたと思います。

最後に、大学生活では、思い切って新たな場所に飛び込んで欲しいと思います。ここまで私の大学生活について真面目にお話してきましたが、経済学部は自由度が高く、工夫次第でどんな道でも切り拓いていける場所だと思います。異なるバックグラウンドを持つ人と積極的に交流しながら、自分の進む道を見つけていただけたらと思います。



竹内 尊紀 TAKEUCHI Takanori

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了(2018年3月)

就職先
(株) リクルート

はじめに、数ある大学の中から九州大学経済学部但至少でも興味を持っていただきありがとうございます。私が2016年3月に卒業した経済工学科は、前期の入学試験でセンター試験の点数に加えて、理科の記述試験を課さずに国語の記述試験が課されています。そして、数学(数学IIIまで試験範囲)と英語の記述試験を重視した点数配分になっています(平成30年度現在)。

このように受験生の皆様にとって入試科目が特徴的である理由は、入学後の学習に直結しているからだとは私と考えています。数学は、経済の動きを数式で記述することを試みる「理論」や、統計学とデータを用いて経済の動きの検証を試みる「実証分析」で

利用されています。英語は、先行研究や海外の教科書から知見を得るためや、研究内容をグローバルに発信するための論文執筆で使用する可能性があります。数学や英語を「ことば」として利用し、私たちひとりひとりが構成する「社会」を分析することに少しでもワクワクする方にとって良い学習環境であると思います。

授業や研究以外の生活にも、様々な楽しみがあります。サークル活動やアルバイトに力を入れる人もいれば、企業へのインターンシップや学生団体への参加で社会との接点を積極的に持つ人もいます。私自身も、大学での授業を中心に、6年間のサークル活動、複数企業のインターンシップ、飲食店や家庭教師のアルバイト、福岡市こどもの学びと居場所づくり事業など、多くの経験をすることができました。受験生のときは比べ物にならない多様な方々との関わりは私にとって大きな財産となっています。

さいごに、この記事を読んでくださった受験生の方が来春に九州大学経済学部に入學して下さることを心待ちにしています。楽しい学生生活があなたを待っています。



富山 貴史 TOMIYAMA Takashi

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了(2026年3月)

就職先
日本銀行

私は、2020年に経済学部に入學し、6年の在籍を経て修士課程を修了しました。ただ、入学前から経済学部で研究したいことがあったわけではなく、「なんとなく面白そうで、色々なことが学べそうだから。」という理由で、入学を決めました。同じように「具体的にやりたいことがまだ見つからない。」という方には、ぜひ、九州大学の経済学部を検討していただきたいです。

総合大学である九州大学では、文系理系問わず多様な科目を履修でき、幅広い知識に触れることができます。一口に経済学と言っても、アプローチは様々で、心理学や数学の手法を用いることもあります。私自身も、学部の授業や様々なプログラムを活用して視野を広げる中で、少しずつ自分の興味の輪郭を掴んでいきました。また、ビジネス

スクールの教員による授業や会計学、プログラミングなど、ビジネスにも役に立つ授業が展開されていることも魅力だと思います。

そして、制度が充実しているところも魅力あるポイントです。特定の他学部の授業を履修することで学びを深めることができる副専攻プログラムや留学プログラムであるGProE、学部4年次から大学院の科目を先行して履修できる学部・学府一貫教育プログラムなどがあります。幅広く学びを深められる環境が整っているため、自分の興味・関心のある分野を見つけたうえで、より専門的な知識を身につけることができます。

最後に、大学院についてもお話ししますと、(特に経済工学専攻では)留学生が多く、様々な国籍・年齢・価値観をもつ方が学んでいます。学部よりも高度で専門的な内容を多様な背景をもつ人達と議論することで、これまでにない視点からの学びを得ることもあります。また、先述の学部・学府一貫教育プログラムを通じて、学部と大学院の修士課程で通常計6年間であるところを5年で修了することもできます。

九州大学の経済学部では、様々な環境で育ってきた学生が、多彩な分野の専門家である教員とともに学びを深めています。三者三様の学び方ができるこの場所で、自分の進む道を見つけてみませんか?



伊藤 朱里 ITO Akari

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了(2022年3月)

就職先
福岡県庁

「成長はしなくてもよい。変化することが大事。」ゼミでお世話になった教授から教わり、今でもふと思い出す言葉です。苦手なことをできないことと決めつけず、臆せずチャレンジしてみることで視野が広がるよ、という意味に解釈しています。

私の場合、苦手なことと言えば人前で話すことでした。ゼミに入った当初は、報告の際に緊張で声が震えるほどだったことを思い出します。しかしそんな私でも、九州大学での6年間の学生生活を通じて、数々のノウハウを学び、体験を重ね、最後には、落ち着いた態度で学会の研究報告をできるまでになりました。そのノウハウ、体験のほとんどが、ゼミを通じて学んだものです。

私の所属していたゼミでは、3年次の一年間は、4年次での論文作成

のための助走期間と位置付けられ、図書館やネットでの文献検索の方法、レジュメの作成方法から報告の作法までをみっちり仕込まれます。ゼミの同期と一緒にひいひい言いながらなんとかついていったかんじでしたが、一次情報をmisreadせず、また、misleadしないように他者に伝えることについて真剣に考えたことが、社会人となった今活きているように感じます。

また、体験を通じて得たものも大きかったです。修士に入ってから、研究室内の自主ゼミでの報告、講義での報告、一年に一度開かれるポスターセッションでの報告、最後には学会での報告と、報告する機会が数多くありました。そして、教授や研究室のメンバーをはじめとするさまざまな方から数多くのフィードバックを受けることができました。いただいた意見をきっかけに研究が展開していく場面が多くあり、そのたびに環境に感謝しました。なにより、自分が書いたり話したものに対して、誰かが真剣に意見をしてくれることをうれしく思いました(それは学部時代も同様です)。

九大経済学部への入学を検討されている皆さんには、自分のやっていることに対して真剣に伝えてくれる人が大勢いるんだということ、声を大にして伝えたいです。ゼミに限らず皆さんの可能性を広げる機会を沢山得ることができると思います。



土中 哲秀 HANAKA Teshu

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了(2018年3月)

就職先
中央大学理工学部情報工学科 助教

私は、2010年に九州大学経済学部経済工学科に入学し、学部から博士までの8年間を過ごしました。ゼミ配属では、元々やりたかった経済学と数学の関係を勉強するために、数理情報講座のゼミから選ぶと決めていました。そして、恩師の小野廣隆先生(現名古屋大学大学院情報学研究科)と出会いました。小野先生は理論計算機科学やオペレーションズ・リサーチなどの情報学がご専門でしたが、ゼミ配属の前にお伺いして、経済学と情報学、そしてその背後にある数学の関係を丁寧に説明していただき、これだと思って決めました。配属後は、グラフ(ネットワーク)と呼ばれる離散構造における重要部分構造抽出アルゴリズムの開発に取り組みました。

この研究テーマは、経済学とは関係があるものの、どちらかといえば理論計算機科学に関するものでした。修士に進学するときに自身の培ってきたグラフの視点を経済学分野に応用したいという思いが強くなり、小野先生に相談すると、経済経営学科の加河茂美先生を紹介していただきました。加河先生は産業連関分析と呼ばれる経済分析がご専門ですが、グラフ理論などにも詳しく、実経済データのグラフ的分析に関する研究をしておられました。私は、アルゴリズムの研究をする一方で、経済ネットワーク分析に関する共同研究も始めました。同時に二つの研究を行うのは大変でしたが、博士課程の間に両分野の論文を英文誌と国際会議で発表することができました。このような経済学と情報学の両分野をつなぐ学際研究ができたのは経済工学科ならではのようです。そして、初学者だった私を熱心に指導して下さった小野先生、加河先生には感謝の言葉もありません。

最後に、九州大学経済学部経済工学科にはこのように素晴らしい先生方がおられ、また幅広い分野をつなぐ最先端の研究を行うことができます。自分自身のやりたいことを見つけ、切り開いていってください。



江口 昌伍 EGUCHI Shogo

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了(2018年3月)

就職先
福岡大学経済学部 講師

私は2010年に九州大学経済学部に入學し、学部2年次に加河茂美先生の経済・経営学基本演習を履修した際に、環境経済学に出会いました。環境経済学とは、端的にいうと、環境問題を経済学の観点から分析する学問分野であり、「なぜ環境問題が生じるのか」、「環境問題を解決するためには何が必要か」といったことが分析対象です。私は、加河先生の演習を受ける以前は、環境経済学という存在すら知りませんでした。しかしながら、演習の時間に色々な議論に触れるにつれて、環境経済学に対する興味が高まり、3・4年次には加河先生のゼミに所属し、更にはそのまま大学院に進学するに至りました。

大学院進学後は、とにかく研究室のメンバーに恵まれました。

私は、「博士後期課程に進学するからには大学教員を目指そう」と決めていたのですが、私の在学中に、加河研究室からは2名の先輩方が大学教員として就職され、お手本となる先輩方を身近に感じられたことは非常に貴重な経験でした。また、加河研究室の博士後期課程に在籍する日本人学生の数は、日本の同分野の研究室の中でもトップクラスに多く、また、在籍するほとんどの学生が査読付きの英文誌に論文を掲載しているなど、研究室の規模と質の両面において全国的にもトップレベルと言えるものでした。常に切磋琢磨しながら研究に打ち込む環境があったことは、大学教員を目指すにあたって、この上ない環境だったと思います。また、研究室のメンバー同士の仲も良く、愚痴を言い合ったり、気晴らしにみんなで遊びに行ったりと、とても楽しい研究室生活を送らせてもらいました。

まだまだ書き足りないことは多いですが、九州大学の経済学部には素晴らしい先生方に加えて、レベルの高い学生も多く、自分の可能性を広げるためのこれ以上ない環境があります。ゆっくりで構いませんので、是非、大学生活の間に将来の目標を持ち、その実現に向かって有意義な毎日を送ってください。



白新田 佳代子 SHIRONITTA Kayoko

九州大学経済学部卒業を経て
九州大学経済学府修了(2019年3月)

就職先
福岡女子大学 講師

私は、2010年に九州大学経済学部に入學しました。学部で学んできた経済学の基礎は社会の仕組みを理解する上で非常に有効でとても興味深かったのですが、私自身はどうも「お金」に関する話は興味が無いことも分かりました。そこで環境問題に興味があった私は、環境経済学の経済・経営学基本演習(加河茂美先生)を履修しました。環境経済学は、端的に言えば経済学のアプローチを使って環境問題や資源問題の仕組みを理解し解決することを目的とした研究分野です。これが私の興味・関心と合致し3・4年次も引き続き加河先生の経済・経営学演習(ゼミ)を履修し、ゼミの卒論で取り上げた研究テーマについてもっと深めていきたいと大学院進学を決めました。

大学院進学後は、将来は研究者として社会の役に立ちたいと考えていましたが、指導教官である加河先生の精神的な指導と優秀なゼミメンバーたちに大いに刺激を受けて自分の研究に打ち込むことができました。この点で私がいた研究室は研究者としての素養を身につける最良の環境だったと言えます。また、学内の先生方とはもちろん、他大学や研究機関の研究者と交流する場が設けられトップレベルの議論を経験できたことも貴重な財産です。

話は少し変わりますが、女性の大学院進学者は依然として少ない現状があります。「女性だから」という理由だけで大学院に進学しないのはもったいないです。なぜなら、大学院には男女関係なく学問を目指すものたちに開かれた質の高い研究環境が用意されているからです。また、女性だからこそ気付くことや明らかに出来るものがまだまだたくさんあります。この新しい視点がこれからの社会の問題解決において非常に重要になると、私自身信じています。

九州大学経済学部・経済学府には、自分の可能性を広げる出会いと経験が待っています。人生を豊かにする一つの選択肢として、是非、皆さんも九州大学経済学部の進学を考えてみてください。



学生生活支援

奨学金



奨学金には、現在奨学生の大半を占めている日本学生支援機構奨学制度と、地方公共団体・民間の奨学制度があります。応募者は選考のうえ奨学金が貸与又は給付されます。詳細は「九州大学Webサイト」の「受験生」から「入学科・授業料・奨学金を知りたい」をご覧ください。

学生寮



九州大学経済学部に入学した新入生は、寮への入居を申請することができます。詳細は「九州大学Webサイト」の「受験生」から「キャンパスライフを知りたい」をご覧ください。

授業料の免除



経済的な理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合には、願い出により当期分の授業料が免除されることがあります。詳細は「九州大学Webサイト」の「受験生」から「入学科・授業料・奨学金を知りたい」をご覧ください。





国際交流

国際交流協定による外国留学

九州大学では、世界34カ国・地域の149の大学と学生交流協定を結び（2026年5月現在）、学生の海外留学を積極的に支援しています（詳細は「九州大学Webサイト」の「受験生」から「海外へ留学する方法を知りたい」をご覧ください）。

こうした大学の枠組みを利用して、毎年、多くの経済学部生が世界の主要大学に、数か月から1年間程度の留学を行っています。留学先で講義や少人数クラスに出席して修得した単位の一部は、経済学部の卒業のための単位として認定されます。

最近3年間（2023～2025年）の経済学部学生による外国留学の国別人数と留学先大学名は次のとおりです。

アメリカ	アリゾナ州立大学、サンノゼ州立大学、ジョージア大学、ワシントン大学、北アリゾナ大学	13名
イギリス	シェフィールド大学、グラム大学、ニューカッスル大学、プリストル大学、リーズ大学、ロンドン大学アジア・アフリカ学院	11名
オーストリア	ウィーン大学	1名
シンガポール	シンガポール国立大学	3名
スウェーデン	ウプサラ大学、スウェーデン王立工科大学、ストックホルム大学	4名
タイ	チュラロンコン大学	1名
ドイツ	ミュンヘン工科大学、フランクフルト大学、ルートヴィヒ・マクスимиリアン大学	7名
フランス	ナント大学、ボルドー大学	3名
ブルネイダルサラーム	ブルネイダルサラーム大学	1名
ベルギー	レウヴェン・カトリック大学	4名
韓国	延世大学校	1名
台湾	国立台湾大学	2名
中国	香港科技大学、香港中文大学	2名



修学相談支援室（SQA）

SQAでは、経済学部・学府の修学に係る相談など下記の支援をしています。どうぞお気軽にご利用ください。

- ◎大学院・学部の講義の補習
（不明点の補習やPPT作成方法の指導等）
- ◎学会報告支援
（学会報告申請や報告の際の留意点などのアドバイス等）
- ◎論文執筆支援（形式上のルールのアドバイスのみ）
- ◎卒論や研究に必要な統計ソフトの使用法

外国人留学生と学ぶ 九州大学経済学部

2026年5月1日現在、九州大学経済学部で学ぶ外国人留学生は12名です。その出身国別内訳は、韓国が4名、中国が4名、マレーシア1名、タイ2名、アメリカ1名となっています。

これら学位取得を目的とした留学生のほか、海外提携校からの交換留学生も在籍しています。また、留学生向けの授業も用意されています。

[留学生担当教員の紹介]



儲 梅芬
CHU Meifen

★ KYUSHU UNIV.





大学院案内



九州大学経済学部卒業後の進路の1つに大学院への進学があります。九州大学大学院経済学府*では大学院進学を促進し、進学後の勉学を円滑化するため、経済学部のカリキュラムと連続性のあるカリキュラムを導入しています。また、「学部・学府一貫教育プログラム」(6-7ページ参照)も設けています。ここでは、学部卒業後の進路の一つである、大学院経済学府の2つの専攻(経済工学専攻・経済システム専攻)を紹介します**。

*九州大学では、大学院を「学府」と呼んでいます。

**主に社会人向けの専攻＝「産業マネジメント専攻(QBS九州大学ビジネス・スクール)」については20ページのコラムを参照。なお、経済工学専攻のカリキュラムは学部の経済工学科のカリキュラムと、経済システム専攻のカリキュラムは学部の経済・経営学科のカリキュラムと、それぞれ連続しています。



大学院 経済学府 経済工学専攻

最先端の経済学と工学により、 諸問題を創造的に解決できる人材を育成

経済工学専攻は、経済システム解析講座、政策分析講座、数理情報講座の3大講座から構成されています。複雑化・不確実性の度合いを強めつつ進化する現代社会において、創造的な発展をにない高度専門研究者・専門職業人の養成が目標です。

教育・研究上の特徴は、第1に、高度な理論・計量分析の手法を開発・使用して、経済の諸問題を科学的に解明し、先端の研究領域において革新性のある研究を切り開く創造的能力を育成する点にあります。第2に、経済と政治が複雑に絡み合う経済社会において、現実的な感覚にもとづいて政策課題を設定し、分析ツールをもとに課題を研究し、その成果をフィードバックする手法を修得できることです。第3に、経済・経営問題に関する高度かつ最新の数理・情報解析の手法を開発・活用する能力を修得できることです。

経済システム解析講座では、数理的手法を用いてマクロ経済、ミクロ経済の双方の諸問題を理論、実証の両面から分析します。ミクロ経済分析、経済モデル解析、マクロ経済分析、計量経済学、マクロ数量分析などの分野から成り、いずれも、理論モデルや計量モデルをもとに現実問題の解決策を構想します。現代的な課題である医療、情報、環境、開発、景気変動等の理論的、実証的研究が展開されています。

政策分析講座では、多様な経済問題に関する政策を分析し評価するための手法を学び、新たな政策提言を行うことが課題です。中心的なテーマは、市場による調整と公的な介入をどのように調和させるか、財政、金融、雇用、福祉など経済に結びついた諸政策の役割と企業、政府及び政治のガバナンスの問題など、広範囲に及びます。

数理情報講座では、経済分析のための数学的手法、数理計画法とその関連分野、経済・経営データの解析手法、数理ファイナンス等のための確率・統計理論とその応用、情報処理・管理のためのコンピュータ技術など、数理的理論や情報処理手法の研究が積極的に進められています。

大学院 経済学府 経済システム専攻

国際的に活躍できる研究者や 高度専門職業人を養成

現代の経済社会においては、世界経済、国内経済、地域経済などの多層的な経済空間、および財政、金融、産業、企業などの経済制度・経済主体が、相互に複合的に関連しつつ経済システムを構成しています。現代の経済システムは、先端的科学技術の急速な発展や、経済のグローバル化・市場経済化の進展、環境・福祉面における市場ニーズの変化などによって大きく変容しています。そのなかで、経済社会がかかえる問題に対処していける人材を育成することが、大学には求められています。

経済システム専攻は、経済システムを「現代経済分析」「世界経済分析」「産業分析」「企業分析」という4つの側面から多面的、多層的、総合的に分析し、高い専門性だけでなく、広い問題関心と鋭敏な現実感覚、複合的な分析能力を身につけ、国際的に活躍できる研究者や専門職業人の養成をめざしています。本専攻で養成する人材は、産業と技術のマネジメント分野のプロフェッショナルやアジア・ビジネスのリーダーを養成する、産業マネジメント専攻(ビジネス・スクール)とは異なっています。

修士課程においては、学術研究の基礎と実践の指導を通じて、研究能力の養成を図ります。また、ビジネス界における専門知識や国際コミュニケーション能力を有する人材ニーズの高まりや、公認会計士など資格取得希望者による専門知識の修得、留学生や社会人を対象とする専門職業人教育にも対処したいと考えています。さらに博士後期課程においては、現代社会において生起する種々の問題を冷静かつ客観的に観察・分析し、それを踏まえて深く課題を探究し、問題の解決方向を見出していくための理論・方法を提示できる研究者・高度専門職業人を養成していきたいと考えています。これらは、学術分野の第一線で国際的にも活躍できる研究者、産業マネジメント専攻を修了した実践志向的な研究者、現場において研究能力を生かせる高度専門職業人(エコノミスト、リサーチャー、フィールド・ワーカー)、国際機関の第一線で活躍できる人材、高い専門知識を有する社会人などから成ります。

就職状況

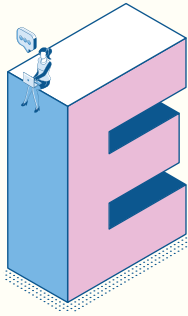
[卒業生就職等状況一覧表]

業種	令和5年度	令和6年度	令和7年度
農林業・漁業・鉱業	1	0	0
建設	2	3	8
食料品・飲料	1	2	1
印刷	1	0	1
化学工業	1	1	4
鉄鋼・非鉄金属	0	2	2
汎用機器	4	2	4
電子部品・デバイス	1	1	1
電気・情報通信機器	0	3	1
輸送用機器	1	3	1
その他製造業	5	2	0
電気・ガス・水道	9	4	6
情報通信	24	37	29
運輸・郵便	4	8	2

業種	令和5年度	令和6年度	令和7年度
卸売・小売	7	7	14
金融・保険	52	46	59
不動産・物品賃貸	3	3	5
宿泊・飲食	1	0	0
生活関連サービス	1	2	1
教育・学習支援	1	1	2
医療・福祉	1	1	0
その他サービス	24	41	36
官公庁	14	14	12
上記以外	14	2	0
小計	172	185	189
大学院進学	26	30	27
総計	198	215	216

卒業生が就職した主な企業・官公庁は、次のようになっています。

ADKホールディングス	九州大学	電通国際情報サービス	日立製作所
EY新日本監査法人	九州電力	東京海上日動火災保険	広島県
IHI	九州旅客鉄道	東京海上日動システムズ	福岡銀行
JFEスチール	九電工	東京ガス	福岡県
JR博多シティ	京セラ	東京国税局	福岡国税局
MS & ADシステムズ	キリンホールディングス	凸版印刷	福岡市
NTTコミュニケーションズ	熊本県	トヨタ自動車	福岡地所
NTTデータ	熊本市	トヨタ自動車九州	福岡地方裁判所
NTTデータ経営研究所	コカ・コーラボトラーズジャパン	豊田通商	福岡労働局
NTTドコモ	国際協力銀行	長崎県	富国生命保険相互会社
SBI証券	国土交通省	西日本シティ銀行	富士通
SBIホールディングス	西部ガス	西日本鉄道	フジテレビジョン
SMBC日興証券	佐賀県	西日本電信電話	富士フィルム
TOTO	ジェーシービー	西日本旅客鉄道	ベネッセコーポレーション
Uber Eats Japan	住友化学	ニチレイ	防衛省
アクセンチュア	住友金属鉱山	日清製粉グループ	前田建設工業
味の素	住友商事	ニッセイアセットマネジメント	マネーフォワード
麻生	住友生命保険相互会社	日鉄ソリューションズ	丸三証券
アビームコンサルティング	駿河台学園	ニトリ	丸紅
アフラック生命保険	ゼウス・エンタープライズ	日本アイ・ピー・エム	みずほ証券
アマゾンジャパン	セプテーニ・ホールディングス	日本銀行	みずほフィナンシャルグループ
いい生活	全国大学生協連	日本経済新聞社	三井住友海上火災保険
伊藤忠商事	双日	日本サムスン	三井住友銀行
伊藤忠丸紅鉄鋼	ソフトバンク	日本政策金融公庫	三井住友信託銀行
オービック	損害保険ジャパン	日本政策投資銀行	三菱UFJ銀行
大分県	第一交通産業	日本生命保険相互会社	三菱UFJ信託銀行
岡山県	第一生命保険	日本通運	三菱ガス化学
オムロンヘルスケア	大成建設	日本電気	三菱電機
花王プロフェッショナル・サービス	大和証券	日本郵便	明治安田アセットマネジメント
鹿児島県	竹中工務店	日本ユニシス	明治安田生命保険相互会社
神奈川県	中部電力	農林中央金庫	安川電機
川崎重工業	ディー・エヌ・エー	野村證券	読売新聞西部本社
監査法人トーマツ	デロイトトーマツコンサルティング	野村総合研究所	楽天カード
かんぽ生命保険	デロイトトーマツ税理士法人	野村不動産	楽天銀行
北九州市	電源開発	博報堂	楽天グループ
キャノン	電通九州	東日本電信電話	りそな銀行



経済学部の学生は4年間、 伊都キャンパスで学びます。



講義室・演習室

大学の授業は「講義」と「演習(ゼミ)」に大別できます。講義は科目の性質によって、大人数で行うこともあれば、比較的少人数で行うこともあります。これに対して、経済学部が重視している演習は少人数形式の授業です。経済学部には、こうした講義と演習のどちらにも対応できるよう、視聴覚設備を整えた様々な大きさの講義室・演習室が備わっています。



経済学部学生サロン (Echo)

経済学部では、学生サービス向上の一環として、学生サロンを設置しています。学生サロンには“Echo”という愛称があり、これは経済学部の学生が名付けました。経済のEconomyに、学生の話し声が響いてくるというEchoが重ねられています。

サロンには40脚ほどの椅子があり、日本経済新聞や日経ビジネスなどの雑誌を読むこともできます。また、サロンには無線LANも完備されており、PCを持ち込むこともできます。

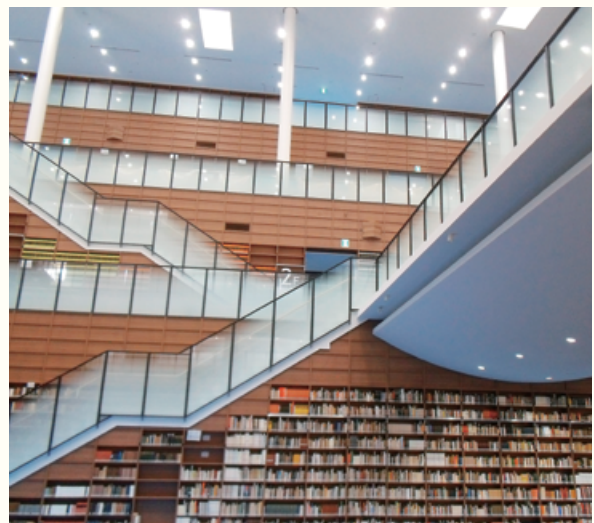
Echoは学生同士の交流の場として活用されています。



中央図書館

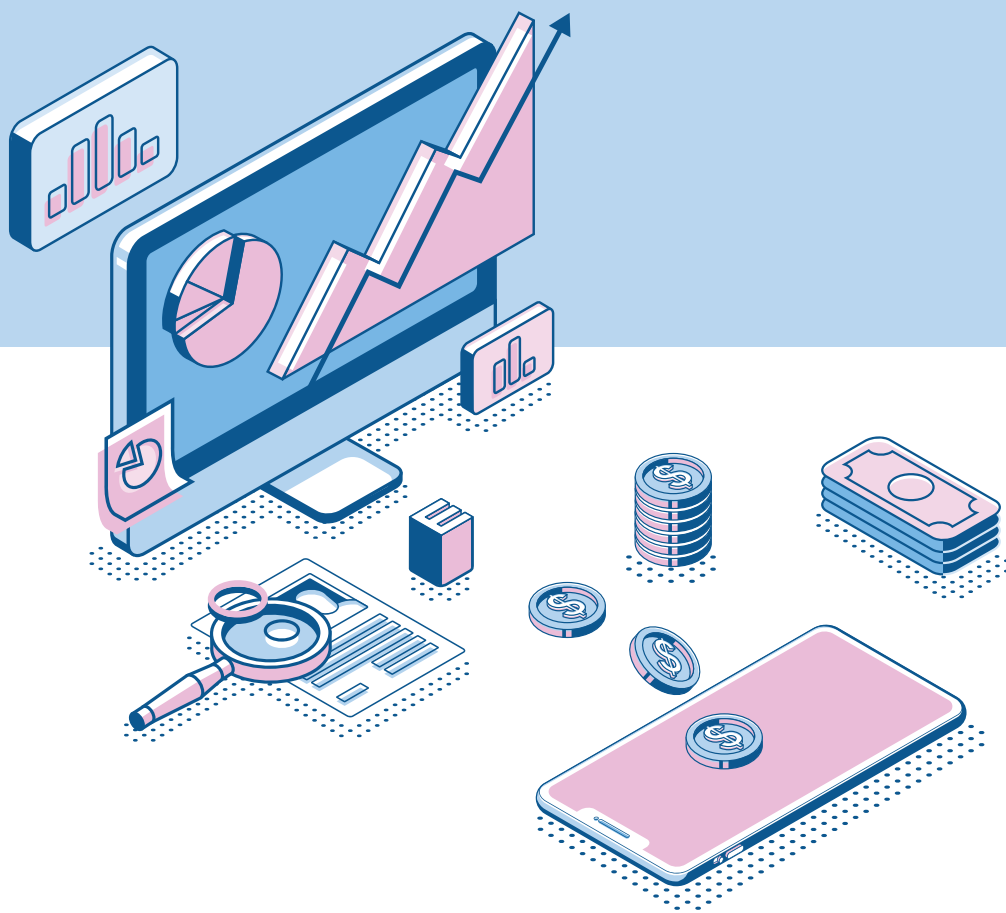
「次の百年を担う図書館であること～アジアのトップブランドとして～」を基本コンセプトに、収蔵能力350万冊を有する国内最大規模の図書館として、2018年10月に全面開館しました。

150万冊収蔵可能な自動書庫と、可動式の机・椅子を配置したフレキシブルな学習空間であるアクティブ・ラーニング・スペースを中心にサービスを提供しています。



経済学部キャンパス アクセスMAP





九州大学
KYUSHU UNIVERSITY

九州大学経済学部

〒819-0395 福岡市西区元岡744

TEL 092-802-6383(人文社会科学系事務部学務課経済担当)

[九州大学 URL] <https://www.kyushu-u.ac.jp/>

[経済学部 URL] <https://www.econ.kyushu-u.ac.jp/>

